

# 香川大学 教育学部 後援会会報



2025.9 第22号

幸楠会  
KOUNANKAI

## 目次

○ ご挨拶（後援会会長）	1
○ 香川大学教育学部後援会「幸楠会」の皆様へ（教育学部長）	2
○ コース・分野・領域等の紹介	
・学校教育教員養成課程	3
○ 教育学部附属教職支援開発センターの紹介	12
○ 教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）の紹介	14
○ 学部だより	
・令和7年度行事予定	17
・令和7年度教育実習計画	18
・学校教育教員養成課程の活動紹介	19
・教員の研究活動紹介	22
・交流教員の活動紹介	26
○ 地域連携	
・香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧	28
・第23回「未来からの留学生」	32
○ 国際交流	
・2024年度の国際交流活動	33
・国際交流体験記	34
○ 学生の活動	
・「第18回わくわくコンサート」の活動紹介	37
・「教職自主サークル」の活動紹介	39
○ 学務事務からの情報	42
○ 進路選択と就職・進学支援活動	44
○ 教育学部後援会（幸楠会）総会報告	50
○ 教育学部後援会（幸楠会）会則	55
○ 教育学部教員一覧	56

## ご挨拶

香川大学教育学部後援会会長  
富田 あかね

香川大学教育学部後援会（幸楠会）の会員の皆様には、日頃から後援会活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

また、この春めでたくご入学されました学生の皆様とそこご家族の皆様に対し、心よりお祝いを申し上げます。縁あって香川大学に進学された皆様を歓迎すると共に、有意義な学生生活が送れるよう、少しでもお手伝いできればと思っています。

本後援会は、教育学部と家庭の連携を密にして、学部が実施する教育事業を支援することを目的として、昭和24年に設立され、70年以上の長い歴史と伝統を有しています。会員は教育学部学生の保護者と教育学部教職員とで構成され、会員の皆様から支援いただいた貴重な会費等をもとに、学生のため、学部発展のために様々な支援を行っています。

私自身が子育てをして痛感することは、子育ては一人ではできないということです。大切な子どもの命を守り愛情をもって育てることは、大きな喜びである一方、思うようにいかないことの連続でもありました。そんな時に学校をはじめとする地域の温かい支援に何度も助けられてきました。教育は社会を作る基盤です。その基盤を学ぶ皆様が、学生生活を思う存分楽しみ、学びを深めてくださることを願っています。そして、どのような進路を選択されても、地域全体で子どもの成長を見守る社会を作るよき理解者となってくれることを期待しています。

また、本会報が会員の皆様と大学との架け橋となり、会員の皆様にとって、より一層大学への関心につながる機会となれば幸いです。本年度も本後援会の円滑な運営にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、平学部長をはじめ、教育学部の諸先生方の日頃のご指導に対し厚く御礼申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

## 「幸楠会」会員の皆様へ

香川大学教育学部長  
平 篤 志



香川大学教育学部後援会「幸楠会」会員の皆様には、日頃より本学部の教育・研究活動に対して温かなご支援・ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

2025年は、高松の街が新たな一面を見せる年になりそうです。昨年春に完成したJR高松駅北側駅ビル（オルネ）につづき、2月には県立アリーナが完成し、さらに中央を東西に走る道路が週末・休日はプロムナード化され、新たな人の動きが生まれています。徳島文理大学の新キャンパスも駅近くに開学しました。

このような高松市中心部の動きに合わせ、香川大学も新たな試みとして、4月2日、新築された県立アリーナで入学式を挙行しました。これまで大学の入学式は、幸町南キャンパスの講堂で行ってきました。ただ、手狭なため、学部と大学院の式を別々に行わざるを得ませんでした。県立アリーナは、1万人規模の催しができる大規模な施設ですので、今回は、学部・大学院合同で、さらに保護者の方々にも列席頂いて盛大に入学式を開催することができました。栄えある初めての合同入学式では、新入生代表挨拶を教育学部生が務めました。素晴らしい音響設備の下、爽やかな声が響いていました。新入生の皆さんには、入学時の初心を忘れず、勉学に励んでほしいと思います。合わせて、部活、旅行、留学、アルバイトなどを通じて人生経験を広げてほしいと願っています。

2年生以上の上級生の皆さんには、コロナ禍も落ち着き、行動制限がほぼ撤廃され、卒業後の進路を見据えつつ、充実した大学生活を送ってもらいたいと思います。大学には、日々学ぶ大小の教室の他、図書館、体育館、学生食堂といった各種施設に合わせ、留学生との交流ができるグローバルカフェや就職相談ができるキャリア支援センター、何か困ったことがあるときに相談できる保健管理センターやバリアフリー支援室など様々な部署があり、是非有意義に使ってほしいと思います。

2025年3月に卒業した学部学生の動向を見ると、6割強の学生が教職に就いています。3割強の学生は、民間企業や官公庁などに就職した学生で、大学院進学者も少なからずいます。教育学部は、学校現場を中心に、社会の様々な場所で、教育に関する専門的な知見や技能を活かして活躍できる人材をこれからも送り出していきます。国内に目を移すと、大規模な災害の多発化、少子高齢化、首都一極集中と地方の弱体化といった問題が、海外に目を移すと、地球温暖化の進行、国家間の戦争・紛争の多発化、貿易を巡る摩擦といった問題が存在します。香川大学が、香川の地にしっかり根を下ろしつつ、グローバルにネットワークを広げ、複雑化する問題の解決に寄与できる高等教育機関として認知されるよう教職員一同努めて参ります。これからも、皆様からの変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

## 【コース・分野・領域等の紹介】

### ◇学校教育教員養成課程

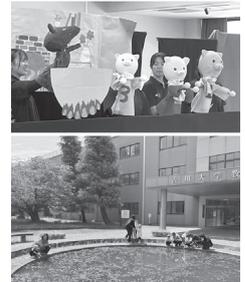
#### 幼児教育コース

幼児教育コースは、人間の生涯にわたる発達と教育についての幅広い知識を背景に、乳幼児の心理や発達、保育・幼児教育の目標や内容、計画や評価、制度や歴史などを総合的に学びます。さらに授業内外を通じて積極的に保育現場に出かけることで、乳幼児に接しながら実践的な体験を積み重ね、理論的な視点と結びつけて課題を見つけ、探求することを重視しています。

幼児教育コースの履修基準を満たすと、幼稚園教諭1種免許状と保育士資格を取得することができます。多様なカリキュラムを通じ、家庭・地域における子育て支援も視野に入れた保育者（幼稚園教諭・保育士）の養成を目指しています。授業単位を積み増すことで、小学校・特別支援学校の教員免許の取得が可能であり、ほとんどの学生は小学校教諭1種免許状も取得して卒業します。

研究室活動や授業の中で、地域と連携し乳幼児や保護者を対象としたイベントを継続して行っています。そこでは、準備から実施、振り返りを通して学生相互の人格的な交流が図られるとともに、地域に貢献する活動としての評価も得ています。2024年度のオープンキャンパスでは、おもちゃ製作や「3匹のこぶた」の人形劇を2年生中心に行い、高校生の皆さんに見てもらいました。また「未来からの留学生」では、シャボン玉遊びをしたり、たくさんの紙コップを積んだり、重ねたりするコーナーを提供し、地域の子どもたちや保護者の方と交流しました。特別講義では、これまで10年以上にわたり小豆島町との共同で実践してきた「オリーブの島保育合宿事業」の成果をふまえ、『島の保育とその魅力』というテーマで、実際に小豆島で保育者として働いた卒業生の話を聞き、学ぶことができました。“おさんぽプロジェクト 扇町保育所×幼児教育コース”では、大学近隣の高松市立扇町保育所の子どもと学生たちが共に、キャンパス内で季節にあった遊びを継続的に楽しんでいます。互いの交流を深めつつ、実際の子どもの姿を学ぶ貴重な機会となっています。

専任教員は、片岡元子（保育原論、保育者論などを担当）、藤元恭子（幼児体育、保育内容の指導法（身体表現）などを担当）、松本博雄（乳幼児心理学、保育内容の指導法（言葉）などを担当）、吉川暢子（幼児図画工作、保育内容の指導法（幼児造形）などを担当）、松井剛太（社会福祉原論、障害幼児の保育などを担当）です。現在、幼児教育コースには、1年生・2年生各10名、3年生11名、4年生9名の計40名が在籍しています。就職状況は良好で正規採用率も高く、多くは幼稚園・保育所・こども園等の現場に就職し、活躍しています。



#### 教育課題探究分野 教育領域

教育領域は、教育学を基礎として学校教育は勿論、教育という営みの本質や現代的な課題を教科という枠を超えて学ぶ領域です。そのため、教員に必要な知識・技能、学校現場や子どもの捉え方に加え、学校や教員、子どもを取り巻く社会環境の理解も含め、広くかつ深く探究することを目指しています。1学年20名前後という規模も活かしつつ、演習（少人数作業や議論を核とした授業）や卒業研究を重視した指導を行っています。卒業生の多くは県内外の教員として働きますが、自治体や民間就職をする学生もいるので、小学校教員養成を軸としつつも、個人の関心や特性を踏まえた指導・支援をしています。

令和7年度は19名の2年生が新たに加わり、3年生23名、4年生20名の62名で構成される、学校教育教員養成課程の中でも大所帯かつ個性あふれる集団です。教員免許取得に必要な教科に関わる授業で、他の領域の学生と交流が少なからずある点も教育領域の特色ですが、以下では教育領域ならではの授業・取組を紹介します。

2年次には、教育領域の全教員がオムニバス形式で担当する「教育学演習Ⅰ」があります。この授業を通して多様な教育学的視点を学び、学生間そして教員との繋がりも深めます。2・3年次の学生が受講する「教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ」は、異学年が混在する集団を4グループに編成して、教員の支援を受けつつも自主的に設定したテーマの探究を行い、その成果を8月のオープンキャンパスや夏合宿で披露します。3年次からはいわゆるゼミに所属し、「教育学演習Ⅱ」、「教育学演習Ⅲ」を受講します。そして2年間かけて自らの関心で設定した自由で多様な研究テーマを深掘りし、卒業論文として完成させます。

教員は、高須、柊澤、小方、香川県教育委員会との交流人事教員である川東、大和田の5名で、卒論指導においては教職支援開発センターとの兼担である山岸、教職大学院との兼担である笹屋を加えた計7名体制で、きめ細かな教育を行っています。授業外でも教育領域には年間を通して多様な行事があります。卒論構想発表会、2年生歓迎コンパ、小豆島での夏合宿、「未来からの留学生」という創作劇の発表、卒論発表会、4年生送別コンパ等です。近年、学生の志向も多様化する中で、よき伝統は守りつつも常に刷新し生まれ変わる領域の在り方が求められています。学生の主体性を尊重しつつ、全ての学生が成長できる場であり続けたいと考えています。



【新生生の歓迎】



【未来からの留学生】



【卒論発表会】

### 教育課題探究分野 心理領域

心理領域では、教育者として必要な心理学的知識と技能の習得をめざしています。2年次から、教職科目と並行して、必修科目である心理学実験と心理検査がはじまります。2週間に一つずつ心理学実験や心理検査を実施し、レポートにまとめ、添削指導を受けながら専門的な力をつけていきます。3年次になると、必修科目として教育心理学演習と教育心理学実験も加わり、毎週、学術論文の購読や心理統計法を用いたデータ解析、データをわかりやすく提示するための図表の作成や研究成果のプレゼンテーション等に取り組み、その中で研究を遂行し、他者に伝えるための力を身に付けていきます。グループ討議では、心理学に関連する課題について、異なる視点や意見を尊重し合いながら議論を行っています。こういった力は、4年次の卒業研究に結びつくだけでなく、将来の学校現場での実践研究にもつながるものです。

令和7年度の教育学部心理領域の学生数は、2年生14名、3年生12名、4年生15名の合計41名です。教員は、大久保智生、岡田涼、宮前淳子の3名です。

心理領域では、年間を通してさまざまな行事を行っています。例年は、新2年生を対象としたガイダンスをはじめとして、歓迎会、送別会などを開催し、心理学教室の懇親を深めています。8月には、心理領域の学生と教員が全員参加しての卒業論文の中間発表会を行いました。また、2月には、大学生活の集大成となる卒業論文発表会を開催しました。4年生は、各自が設定した研究テーマについて考えを深め、研究の成果をひとりひとりが堂々と発表することができました。問題意識に基づいて仮説をたて、データを収集し、分析し、結論を導き出すといった一連のプロセスのなかで、問題解決能力を高めるだけでなく、様々なスキルを身につけることができました。発表会の司会進行もすべて学生が行い、研究発表に対する質疑応答も活発に行われました。学びとは決して一人だけで深めていくものではなく、対話を通してこそ豊かになっていくものだと感じております。今後も、互いに刺激を受けながら、共に成長していける時間を大切に積み重ねていきたいと願っております。



### 教育課題探究分野 生活・総合領域

令和7年度の生活・総合領域は4年生12名、3年生12名、2年生12名です。主担当教員は寺尾徹、轟木靖子、山下直子、吉澤樹理の4名です。4年生の卒業研究の指導については、副担当教員の岡田涼先生（心理）と三宅岳史先生（社会）に、今年度も引き続きご協力いただいております。

生活・総合領域2年生の必修科目である「総合教育基礎演習」では、植物の栽培活動に継続的に取り組んでいます。栽培活動は小学校の生活科で必ずと言ってよいほど実践されています。しかし、栽培であればどの子も常に興味・関心をもち意欲的に活動できる、というわけではありません。そのポイントを学生たちが実際に栽培をおこない、意見交換しながら探っていくことをねらいとしています。学生たちはそれぞれ育てたいトマトなどの野菜やひまわりの種を選んでまき、日々の水やりをして、やがて花が咲き収穫するという体験を通して、さまざまな気づきを得ることができます。昨年度の栽培活動でも、いろいろな植物を育て、ヒマワリは咲きサツマイモの収穫をすることもできました（写真参照）。

3年生の「総合教育演習」では、教育実習に向けて生活科の授業を継続的に参観しています。生活科は学生同士での模擬授業が難しいので、実習前に附属高松小学校の授業を参観し、そこで得た学びを深めることを目指しています。

また、コロナ禍の影響で領域の教員や学生が一堂に会する機会が少なくなりましたが、教育実習を終えた3年生の報告会は学生間の縦のつながりを築く貴重な機会となっています。3年生にとっては実習を振りかえり将来を考える機会であり、2年生にとっては次年度に向けて心の準備を始めるきっかけとなります。一人ひとりが自分の目標に向かって進路を見だし一歩ずつ進んでいけるよう、教員も引き続き学生をサポートしていきたいと思っております。



## 特別支援教育分野 特別支援教育領域

2025年度の小学校コース、特別支援教育領域は、担当教員3名（坂井聡、小方朋子、小西行彦）、学生57名（4年生：20名、3年生：21名、2年生：16名）でスタートしています。

近年、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の通常学級に在籍する発達障害のある子どもたちに対する支援と指導について関心のある学生が増えてきています。これら学生の関心は、卒業論文のテーマともなっており、それは、実践的な研究につながっています。

学生たちは大学の授業以外の場でも、ボランティアに参加したり、障害のある子どもたちとの活動を企画したり、香川大学バリアフリー支援室で、香川大学に在籍する障害のある学生へのピアサポーターとして活動したりと、積極的に活動しています。学生のボランティアである「ちびっこ教室」は、地域に根差した活動として学外からも評価されています。

本領域では、特別な教育的支援を要する児童・生徒が学ぶ特別支援学校教諭免許状（1種）と小学校教諭免許状（1種）の取得を目的としています。本領域の卒業生は、特別支援学校及び、小・中学校の通常の学級、特別支援学級、あるいは病院内に設置される院内学級の担任として活躍しています。また、小学校・中学校における通級指導教室の数も増えてきており、通常学級にいる発達障害のある子どもたちに対する適切な支援と指導の場においても、本領域への期待は大きくなっています。これらの期待に応えることができるように、本領域では、教育と医学、心理学の連携を重視し、理論を背景とした実践力をつけることができるようにカリキュラムを工夫しています。現在コロナ禍の影響で活動を制限されている状態ですが、感染症対策を取りながら活動を行っています。



ちびっこ教室での活動



## 教科教育分野 国語領域

当研究室では、日本古典文学・日本近代文学・日本語学・中国古典文学・書道・国語科教育の各分野にわたって、専門とする教員の下、日々研鍛を積むべくカリキュラムが構成されています。小・中高の「国語」の教員免許の他、高等学校「書道」の免許を取得することも可能です。また、学校図書館司書教諭の資格も、多くの学生が取得しています。

国語領域に所属する教員は、三十代の若手研究者から六十代のベテランまで6名。学生は、二年生12名、三年生8名、四年生11名の合わせて31名。平素の授業の外に、新人歓迎会・夏合宿・スポーツ大会・研修旅行等々、多彩な研究室行事があり、研究室内の親睦を深めつつ、集団行動や礼儀などを学んでいます。また、大学祭恒例の「和風茶屋」の出店やオープンキャンパスでの領域紹介、「未来からの留学生」の百人一首体験など学生が主になって企画・運営を行っています。さらに、各附属学校の国語科教員には本研究室の卒業生が多く、研究室と附属校との連携は極めて緊密であり、学生は教育実習等で大変熱心な指導を受けています。

また、「香川大学国文学会」という学会を組織し、上記の各専門分野に関する研究を深めていることは当研究室の特色でしょう。昭和28年の第1回卒業生以下の卒業生・研究室の歴代教員を会員とする組織で、毎年1回欠くことなく『香川大学国文研究』誌を発刊しており、質量ともにその内容の充実ぶりは、全国的にもトップレベルの研究誌であると自負しています。平成23年、本学会の元会長である佐藤恒雄名誉教授が、学界最高峰の賞である「日本学士院賞」を受賞されたことは、特筆すべき出来事でした。このように、本学会を通して積み重ねられた研究活動と学問の交流は、国語研究室の誇るべき財産だと考えます。



## 教科教育分野 社会領域

今年度は20名と多くの2年生が社会領域に入りました。これに3年生22名、4年生19名が加わり、現在61名の学生が所属しています。学生たちは「よりよい社会の形成者の育成に寄与できる社会科教育の実践者を育成する」という目標に向かって学んでいます。コロナウイルスの影響もほとんどなくなり、学生も元気に活動しています。卒業構想発表会、卒業中間発表会、卒論発表会もすべて対面で行いました。社会系免許は小学校と中学校が社会科、高等学校が地理歴史科と公民科で分かれていることもあり、免許取得に際しては、他教科よりも多くの授業単位を履修することが必要となりますが、学生たちは工夫しながら免許取得に向けて努力しています。



教員に関しましては、7名で社会系教科の各免許状を発行するのに必要な広い専門領域をカバーしています。その内訳は、鈴木正行（社会科教育学）、平篤志（地理学）、守田逸人（日本史学）、唐澤晃一（西洋史学）、杉木志帆（法学・政治学）、河合史子（社会学・経済学）、三宅岳史（哲学・倫理学）で、特に平先生は一昨年10月より教育学部長、鈴木先生は昨年4月より附属坂出中学校校長に就いています。

また対外的な取り組みとしては、高校生と保護者を対象とした「オープンキャンパス」（8月）、幼児と小学生を対象とした「未来からの留学生」（10月）を対面で実施することができました。

また守田研究室では2023年度から農学部と連携し、農学部附属農場を利用して稲作の歴史について実験的に検証する試みを継続的に行っています。ここでは農業生物資源ジーンバンクから史料に登場するコメ品種の種子の提供を受け、中世の技術水準に則ってコメ栽培を行い、前近代に広がっていた種子の性質を確認するとともに、前近代の人々が一定どの水準の収穫を得るためにどのような努力をしていたのか、検証する試みです。



このように社会領域では、学生に寄り添った専門性の高い授業のなかで、学生が研究や教材開発などで力量のある社会科教師になるために必要となる礎の育成に努めています。



## 教科教育分野 数学領域

数学領域では、専門的な数学の深い素養を持ちつつ豊かな実践的力量を持った数学教員の養成を目指しています。代数、幾何、解析を中心とした専門数学を2年次から学び始め、3年次でそれらを深めるとともに確率・統計やコンピュータなど現代的、実用的な分野も学びます。これらの高い知見を生かした算数・数学の教育法、教育論を3年次から学び、教育実習により教育現場でその実践を経験します。3年次後半からは各自の興味関心に基づき、分野を絞って卒業研究に向けた学習を進めます。4年次には卒業研究に取り組むと同時に、進路選択という大きな課題と向き合うことになります。そのような節目を経て、学生は、数学を1つの柱として教職への力量を形成していきます。

数学領域としての学生の活動は、2年次に「未来からの留学生」で提供する3種の講座、また3年次にオープンキャンパスの領域プレゼンテーションがあり、企画から実施まで全員で協力しておこなっています。特に前者は上の学年からノウハウを引き継ぎつつ自分達のアイデアも盛り込んで実施しており、参加児童たちの楽しそうな笑顔に触れたいへん有意義な機会となりました。

本年度の数学領域修士生は15名でしたが、全員が無事に進路を確定させることができました。卒業後の進路内訳は学校教員が11名（小学校4、中学校7、香川県は7で岡山県が4）、公務員1名、一般企業への就職2名、大学院進学1名でした。本年度も教職に就く者が多く輩出できたことも嬉しく思います。

本年度末をもって幾何学担当の四ッ谷教員が静岡大学理学部へ転出されました。氏の引き続きのご活躍をお祈りしています。代わりに2025年度の1年間限りですが、本学名誉教授の内藤浩忠先生に特命教授としてお越し頂き、幾つかの授業をご担当頂く予定です。豊富なご経験を活かして学生指導等さまざまな場面でお助け頂くことになろうかと思えます。

## 教科教育分野 理科領域

理科領域では、自然科学の基本的な内容についての確かな理解に基づいて、わかりやすくおもしろい理科の授業をつくることのできる教員の養成を目指しています。そのため学生たちは、物理学・化学・生物学・地学について、基礎的な内容を理解し、それらをわかりやすく教える手法・技能を学びます。また、理科教育の目的や目標、授業づくりの考え方などについても実践的に学びます。

理科領域の教員たちは、限られた時間の中で効果的に授業が実施できるよう、連携を密にして共同して授業をすすめています。特に、学生たちが実験・観察教材を身につけようとする授業（理科内容構成）や単元の指導案の作成を試みる授業（理科授業研究Ⅱ）においては、自然科学各分野の専門教員と理科教育学の教員が、それぞれの専門性を活かし・補い合って指導をしています。理科領域では、地域の子どもたちに科学のおもしろさを体験してもらう機会を重要視して、いくつかの行事を企画して実施しています。学生たちが主体になって、科学体験活動を企画・立案し、準備し、協力し合って実施します。それらを通して学生たちは、主体性やリーダーシップ、協調性などを伸ばしていきます。そして4年次の卒業研究では、物理学・化学・生物学・地学・理科教育学に関する特定のテーマについて、専門的研究を行ない、学生たちは専門性を更に深めていきます。



基礎生物学実験  
(哺乳類の解剖の様子)



2024年の  
「オープンキャンパス」の様子



## 教科教育分野 音楽領域

音楽領域では、小・中学校における音楽科教育を広く学びながら、各自が選択した専門分野における研究や音楽実技の向上に日々取り組んでいます。現在は13名の学生が在籍し、4名の教員が指導にあたっています。担当教員は、声楽1名、器楽（ピアノ・木管楽器）2名、音楽科教育（特命）1名で構成されています。本年度からは新たに声楽分野に寺島弘城先生を迎えました。

学内では、学習発表会や年間4回程度開催される「キャンパス・ランチ・カフェ」などの機会を活用しながら、日々地道に実技力の向上に努めています。さらに本年度は、効率的な練習方法と演奏の質の向上を目標に、合奏・合唱練習のあり方を見直し、11月に開催予定の「定期演奏会」で成果を発表することを目指しています。

また、7月には恒例となった「七夕コンサート」を開催し、視覚支援学校の児童・生徒の皆さんをお招きしました。音楽を通じた心温まる交流は、互いを理解し合う貴重な機会となっています。加えて、高松市美術館で開催される特別展にあわせたコンサートは、本年度も実施します。8月にはプラス・アンサンブル、11月には室内楽による演奏を予定しています。

昨年度は、後援会のご支援のもと「わくわくコンサート」に複数の学生が出演し、多くの学生が企画や運営にも携わることで、貴重な実践経験を積むことができました。そのご縁から、本年度初めにはサンポートホールに新たに導入されたカワイグランドピアノの弾きこみに、ピアノを専門とする学生全員が参加し、大ホールで心ゆくまでその響きを体感する機会を得ました。

このように、学内外における多様な実践を通じて、学生は音楽を介して社会とのつながりを経験し、将来、教育現場で力を発揮できるよう日々実践を積み重ねています。これらの取り組みは、卒業生・修了生をはじめとする本学OBの皆さまの温かなご支援に支えられています。今後も教育の質をいっそう高め、学生の学びと成長の機会を広げてまいります。引き続き、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



わくわくコンサート



定期演奏会



美術館コンサート



特別講義：弦楽器

### 教科教育分野 美術領域

美術領域では、子どもの創造力が伸び育つ土壌や育ちのプロセスを、幅広く柔軟な視点から捉えることのできる教員養成のために「造形芸術とその教育に関する諸分野の基礎的な能力・知識を習得する」、「各自に適した表現分野を極め、自分自身を語り表す力を付ける」、「自らの研究と制作を通して教育的視点から造形表現の意味を見出す」などを目標としています。

美術領域に所属する学生は、美術科教育全般について学ぶとともに、それぞれが選択した美術専門領域で担当教員の指導、支援の元、作品制作や美術教育学を研究しています。

専門領域としては、理論的な立場から探究する美術教育、美術理論、美術史、そして、作品制作の立場から探究する絵画、デザイン、工芸、彫刻などがあります。

本年度は教科領域科目として美術教育を吉川暢子教員、デザイン分野を尹智博教員、絵画分野を古草敦史教員、彫刻分野を長谷川隆子教員、工芸分野を創造工学部の柴田悠基教員、また、教科教育科目の図画工作教育法を非常勤講師の村上尚徳教員が担当しています。

現在、美術領域には総合選抜Ⅰで入学した1年生を含めて18名が在籍し、「未来からの留学生」への企画参加や、毎年の「卒業制作展」の開催、また、学外での様々な芸術活動への積極的な参加、学部内外行事に関連する各種ポスター制作など主体的活動を行っています。卒業生は、教職やデザイン関連企業などに就き活躍しています。



「デザインⅠ A」授業風景



「絵画Ⅱ A」授業風景



2024年度卒業制作展 ギャラリーフォレスト（高松市田町）



### 教科教育分野 保健体育領域

保健体育領域は、「体育科教育学」（担当：米村耕平、上野耕平、大西美輪）、「運動学」（担当：石川雄一）、「体育学」（担当：上野耕平）、「学校保健」（担当：宮本賢作）の4つの研究分野から構成されています。各分野とも実践に繋がる理論について、演習を中心として学習していきます。また、実技については、陸上、水泳、球技、武道、スキー、身体表現など専門的な実技能力の習得とともに、その運動の指導技術についても学ぶことができます。特に、体育教師の指導力の育成には力を入れており、2年次から4年次まで、大学生を生徒役に見立てて実際に授業を行う「模擬授業」を中心とした授業が展開されています。ここでは、望ましい教師の行動や教材づくりの方法を学ぶと共に、体育授業を行っていく上で必要な授業をマネジメントしていく力、自らの体育授業を評価する力、そして体育授業を改善し創造していく力など、授業実践に役立つ多くの能力を身につけることができます。

現在、保健体育領域を専攻している学生は、2年生11名、3年生17名、4年生14名の合計42名、教育学部の領域の中でも大所帯の研究室となっています。学生が中心となって学習会やスポーツ大会を行ったり、附属学校との積極的な関わり合いを通して小学生や中学生に対する運動指導の補助を行ったり、学生自らが主体となって将来に向けた学びを活発に展開しています。保健体育領域は学生、大学教員、附属学校教員、そして卒業生との連携も密であり、活気に満ちた領域です。



令和6年度卒業生追い出しコンバ

## 教科教育分野 技術領域

技術領域は、科学技術の成果を基盤とする応用科学及び生活科学に関する技術科教育、材料加工（金属加工、木材加工）、エネルギー変換（機械、電気）、生物育成、情報などの分野を主要な教育・研究課題としています。これらの研究を通じて、現代科学技術の一端を習得し、新たな科学技術にも柔軟に対応できる基礎的・基本的な知識及び技術の涵養することに重点を置いた教育を実践しています。また、高等学校教諭一種免許状「工業」、「情報」の取得も可能であり、これに伴い工業科・情報科関連分野の授業を充実させ、理論のみでなく実践的・体験的な学習活動の指導ができるカリキュラムが用意されています。学生構成は、4年生6人、3年生4人、2年生3人の計13人です。教員数は併任教員を含む4人です。技術領域では、未来からの留学生での展示や親子ものづくり体験講座の企画・実施、学校現場への訪問や現職の技術科教員との学習会を通じた学生へのキャリア支援、学会発表などの活動を広く精力的に行っています。



## 教科教育分野 家庭領域

家庭領域では、衣・食・住の生活や家族、消費生活、環境など、生活に係る多様な分野を理論と実践の両面から学んでいます。さらに、現代社会の様々な生活課題の解決に向け主体的に考え、行動できる生活者、家庭科教員・小学校教員の養成を目指しています。

領域の主な行事には、卒業論文の構想発表会・最終発表会、2年生の歓迎会や卒業生を送る会、日帰り研修、「未来からの留学生」「科学体験フェスティバル」への出展などがあります。昨年度の卒業論文では、「アルバイト従事者が生活習慣と健康度に及ぼす影響」「大学生の衣服購入及び廃棄に関する価値観」など、生活に密着した多様なテーマが取り上げられました。また、10月に実施した小学生対象の教育学部行事「未来からの留学生」では、「今日からきみも洗たくレンジャー！」を企画し、児童が達成感を得ながら家庭でも実践できるような体験型ワークショップを行いました。1月の日帰り研修では、東かがわ市の手ぶくろ資料館や和三盆の伝統的な製法を引き継ぐ三谷製糖を訪れ、香川県の衣や食の生活文化に関わる産業の歴史や取り組み、作り手の手間などへの理解を深めました。

なお、2024年度をもって畦五月先生（食物学）がご退職され、現在の指導教員は、時岡晴美（家族関係学・住居学）、大西えい子（家庭科教育）、一色玲子（家庭科教育・被服学）です。



## 教科教育分野 英語領域

英語領域では、(1)英語教師を目指すものとして将来英語を教える上で必須の知識・教養および技能を身につけること、(2)大学で英語を専攻したものにふさわしい英語力を身につけて卒業することを目的に、英語科教育、英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解の5分野で構成されるカリキュラムに則って講義、演習等を提供しています。

英語領域の学生が中心となって行う活動には、オープンキャンパスでの英語領域紹介、秋の「未来からの留学生」で県下の小学生を対象にオール・イングリッシュで活動を行うクラスを開講すること、4月、12月、2月の研究室親睦会等があります。また、アジア・英語圏の大学、あるいは語学学校へ留学・研修に向かう学生が毎年数名います。

コロナ禍明けの令和7年度は、英語領域の上記活動が本格的に再開し始めています。

英語教育講座教員の学部専門授業科目の担当は次の通りです。

永尾 智：英語学概論、英語学演習、英語史、英語演習Ⅰ

中住 幸治：英語科教育法、英語科教育論、小学校英語教育法、英文法演習、英語演習Ⅳ

Batten, Paul：英語科授業研究Ⅰ・Ⅱ、小学校英語、英作文Ⅰ・Ⅱ、英語演習Ⅱ

杉田 貴瑞：英語圏文学概論、英語圏文学演習、英語演習Ⅲ

また、「英語科内容構成」という学部専門授業科目と共通教育英語科目を全員が担当しています。さらに教職大学院及び大学院創発科学研究科での授業担当や指導主任等にも携わっています。講座外からは、例年通り大学教育基盤センターの長井克己先生に「英語音声学演習」を、Gerardine McCrohan先生に「英会話」「異文化間コミュニケーション」「異文化理解」をご担当いただいています。

令和7年度の学生数は、2年生11名（うち小学校教育コース学生7名）、3年生9名（うち小学校教育コース学生6名）、4年生・過年度生14名（うち小学校教育コース学生7名）となっております。

令和6年度卒業生の就職状況は、卒業生14名のうち、小学校教員4名、中学校教員1名、公務員1名、一般企業6名、自営業1名、大学院進学1名でした。

課程・コース一覧

【1～4年生】

課程	コース	分野	領域
学校教育教員 養成課程	幼児教育コース		
	小学校教育コース	教育課題探究分野	教育領域, 心理領域, 生活・総合領域
		特別支援教育分野	特別支援教育領域
		教科教育分野	国語領域, 社会領域, 数学領域, 理科領域, 音楽領域, 美術領域, 保健体育領域, 技術領域, 家庭領域, 英語領域
中学校教育コース		国語領域, 社会領域, 数学領域, 理科領域, 音楽領域, 美術領域, 保健体育領域, 技術領域, 家庭領域, 英語領域	

※各領域への所属は、2年次からです。

## 【教育学部附属教職支援開発センターの紹介】

附属教職支援開発センターは、教職を目指す学生の実践的指導力の向上、教職支援体制の充実、及び、現職教員の更なる実践的指導力向上のための研修に寄与することを目的としています。学部や教職大学院、附属学校園、香川県教育委員会等の地域社会の教育関係諸機関と連携・協働して、実地教育、教職支援、教育開発/ICT活用及び特別支援教育の推進的役割を果たすことに取り組んでいます。具体的には5つの部門を設け、それぞれ次のような活動を推進しています。

なお、本センターは、センター長、専任教員（2名）と客員教員（3名）、兼任教員、事務系職員より構成されており、これらのメンバーが一体となって各部門の運営にあたっています。

### （1）実施教育推進部門

実地教育推進部門では、実地教育委員会との共同体制により、4か年を見通した実地教育の企画・推進（必須科目①～④）を行っています。

- ① 1年次：【学校理解】教職概論（大学入門ゼミ）
- ② 2年次：【子ども理解】教育実践プレ演習
- ③ 3年次：【授業理解】教育実践演習（教育実習事前・事後指導）
- ④ 4年次：【教職理解】保育・教職実践演習

なお、3・4年次の教育実習（主免・基礎免・副免）、2年次の介護実践演習、保育実習及びボランティア活動については、実地教育委員会を中心に行います。

### （2）教職支援推進部門

教職支援推進部門では、学生支援専門委員会との共同体制により、学生のニーズに応える教職支援のための活動の企画・推進を行っています。

- ① 教員就職率の向上に資する支援活動
  - ・ 教員採用に関する情報提供
  - ・ 各種ガイダンスやセミナー、説明会等の開催、教職自主サークルへの支援など
- ② 教職志望学生及び現職教員への教育相談活動の実施
  - ・ 進路に関する相談、教職に関わる悩み等の相談 など
- ③ 教育実践集中講座の開催

### （3）教員研修推進部門

教員研修推進部門では、現職教員への研修支援活動を行っています。

- ① 指導力向上のための公開講演会等の開催
- ② 学内の現職教員研究各種プロジェクトへの協力 など

### （4）教育開発/ICT推進部門

教育開発/ICT推進部門では、学部・附属共同研究機構をはじめ学部・附属学校園との共同体制により、教育に関する研究開発ならびにICT機器の教育における活用について企画・推進を行っています。

- ① 学部・附属による共同研究に関わること
- ② ICT機器の活用支援
- ③ 教育関係資料（教科書を含む）及び各種機器の整備・貸出
- ④ 『香川大学教育実践総合研究』の編集・刊行 など

#### (5) 特別支援教育推進部門

特別支援教育推進部門では、学部・附属共同研究機構をはじめ、地域の教育関係諸機関等との共同体制により、特別支援教育について企画・推進を行っています。

- ①教育学研究科，教育学部における特別支援教育に関する教育活動への協力
- ②特別支援教室（すばる）の運営，業務の遂行
- ③香川県教育委員会，高松市教育委員会，附属学校園，関係諸機関との連携

#### <センターの利用に当たって>

##### ○教材・資料の収集・管理・共同利用

主に教育学部や附属学校園の教員，大学院生や大学生による教育や研究利用のために、①研究資料（他大学からの研究紀要や香川県教育委員会等の関連出版物），教材（教科書及び指導書）等の収集・管理，②教材，機器等の共同利用のための物品などの整備，③ICT 機器等の有効利用のための整備，④学習コンテンツの開発・収集，⑤情報メディア・ICT 機器の活用に向けた教員養成・研修の支援，⑥デジタル教科書の活用のための整備等を行っています。

##### ○研究活動の報告と広報活動

研究活動の報告については、『香川大学教育実践総合研究』を年2回編集発行しています（9月，3月）。また「教育実践集中講座資料集」（センター客員教員が主に学生向けに実施する講座の資料をまとめたもの）を発行しています（3月）。

広報活動としては、「センターニュース」を年1回発行するとともに（5月），最新情報については，随時ホームページに更新掲載しています。なお，センターのホームページ（<https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen/>）にて「センターニュース」のバックナンバーの閲覧も可能です。

##### ○学部，大学院教育の担当

センター専任教員は学部及び大学院の授業を担当しています。

##### ○教育委員会，学校等の地域の諸機関への協力

地域に開かれた機関として，県や市町の教育委員会からの講演等の依頼や，地域の学校からの現職教育等への依頼を引き受けるとともに，香川県教育委員会の教員研修や香川県教育センター及び高松市総合教育センターの研究事業等に協力しています。



今後も引き続き，教員養成，教員研修，地域貢献に努めてまいります。  
気軽にセンターを訪問し，ご活用いただければ幸いです。

## 【教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）の紹介】

教職大学院の令和6年度の取り組みと令和7年度の状況をご紹介します。

＜令和6年度の取り組み＞

### ■「令和6年度 教職実践研究フォーラム」を開催！

大学院生の学びの集大成を発表する「令和6年度 教職実践研究フォーラム」が令和7年3月1日（土）に開催されました。多彩なテーマの下、5会場に分かれて現職教員院生10名、学部卒院生13名、計23名の発表がありました。学外からの参加者も100名（対面71、オンライン37）を超えて、充実したフォーラムとなりました。

☆令和6年度修了生の教職実践研究報告書（研究課題一覧）はコチラから

[https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/graduate/kenyukadai/kenkyu\\_r06.html](https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/graduate/kenyukadai/kenkyu_r06.html)

### ■令和6年度日本教職大学院協会研究大会で本教職大学院修了生が取組を発表！

令和6年12月14日（土）15日（日）に日本教職大学院協会研究大会が群馬大学で開催されました。そのなかで、15日の午前に開催されたポスターセッション（オンライン）において、令和5年度修了生の辻村加奈先生が「特別な支援を要する児童に対する校内外の連携に基づく感情のコントロールに関する支援」と題して発表しました。様々な質問や感想が寄せられて、辻村さんの取組に対する関心の高さが伺えました。

### ■日本教職大学院協会ジャーナルに修了生の実践研究をまとめた論文が掲載！

令和2年度の本学教職大学院修了生である三垣優子先生が、指導教員の山本木ノ実教授とともに実践研究をまとめた論文「特別支援教育の視点における小中連携の効果的な方略—実践につながる支援の共有のあり方—」が採択され、ジャーナル2024年度第1巻に「カリキュラムと教育実践開発」に関する部門Bの区分で掲載されました。

さらに、三垣先生は令和7年1月には、これまでの継続的な実践研究や多様な取組が評価され文部科学大臣優秀教職員としても表彰されました。

また、他の多くの修了生も大学の研究紀要に取組をまとめたり、学会で発表したりするなど、大学院での学びを継続して取り組まれています。

<令和7年度の最新状況>

■令和7年度の新入生

4月2日(水)に新しく完成した香川県立アリーナで入学式が盛大に執り行われました。令和7年度は19名の新入生が入学しました。学校力開発コース1名、授業力開発コース15名、特別支援力開発コース3名です。現職派遣院生が9名、学部卒院生が10名です。3日にガイダンスを行い、新年度の学生生活がスタートしました。

■令和7年度 教職実践研究交流会(10周年記念事業)

本学教職大学院は平成28年度に開設し、令和7年度で10年目を迎えます。これまでの修了生も約150名となりました。毎年、8月初旬に開催しています教職実践研究交流会が、令和7年8月2日に、10周年記念事業も兼ねて開催されました。当日は、院生の中間発表や修了生も交えた交流会、さらに、広島県内の個別最適な学び(単元内自由進捗学習)に関する講演を通して学びを深めました。修了生同士の縦横のつながりや絆が大きくひろがっています。

■令和7年度から、院生自身が「履修カルテ」を用いて自己点検評価を実施!

これまで、香川県の教員等人材育成方針や教員育成指標(教員が身に付けるべき資質・能力等を整理したもの)を参考に、教職大学院生が自らの学びの成果や状況を省察する「履修カルテ」を作成してきました。令和7年度からは、院生本人がこの「履修カルテ」を活用して自己点検評価を実施するとともに、教員も継続して授業改善・カリキュラム改善に生かしていくことに取り組んでいます。自らの学びの成果や状況を自ら自己評価し、資質能力の向上に生かしていきます。

◇大学院生のメッセージ

教職大学院での刺激に満ちた学び

教育学研究科高度教職実践専攻 河原 直希



令和7年4月より香川大学教職大学院に進学し、日々刺激に満ちた学びを重ねています。多様な経歴をもつ仲間たちと共に、教育について深く探究する日々は、自らの視野や思考を豊かにしてくれています。ここでは、大学院での学びの特色を「専門的な講義」「実践に根ざした教員経験」「仲間とのつながり」という三つの観点からお伝えします。

まず、高度な専門性を備えた講義を通して、教育に対する理解がより深まっています。具体的には、学習理論に基づいた授業観察や学校経営に関する発表など、学部時代では学ぶことができなかった教職の現場で求められる知識や自らの専門性を高める技能を体系的に学んでいます。講義の中では、現場経験豊富な教員の方々が、リアルな教育現場での取り組みや課題について話してくださることもあり、現場での実践を理論と結びつられるように日々努力を重ねています。こうした知見は、将来教員として教育現場に立つ際に大きな力となると感じています。

次に、週1回、年間を通して継続的に行われる現場での実習が本研究科にはあります。このように長期にわたり同じ学校に関わることは学部時代では経験できなかったため、日々貴重な経験をさせていただいています。実習を通じて、生徒一人ひとりの個性や成長の様子をじっくり見つめることができています。授業づくりにも実際に取り組み、授業後には担当教員から丁寧なフィードバックをいただくことができています。そのアドバイスをもとに改善を重ねることで、自分自身の指導力の変化を実感できただけでなく、今後の課題や方向性にも気づくことができています。こうした学びは、自らの授業実践をより高める経験になっており、目標に近づけている実感があります。

最後に、大学院生同士の関係性についてです。本研究科には院生が自由に使えるスペースがあり、講義の合間や空き時間に互いの研究や課題について意見を交わすことが日常的に行われています。同じ志を持つ仲間たちと日々対話を重ねることで、新たな気づきが生まれたり、自分の考えを深めたりすることができています。また、現職教員の方々からは、教育現場の実情や授業改善の工夫など、現場感覚に基づいた話を聞く機会や相談も多く、学びをより実践的なものへと引き上げてくれています。このような対話に支えられた環境の中で学んでいることは、非常に恵まれていると感じています。

このように、香川大学教職大学院での学びは、理論と実践の両面から教職への理解を深め、教員としての力を養う貴重な機会だと感じています。残された大学院生活の時間も、一つひとつの経験を大切にしながら、教育者としてさらに成長できるよう、新たなことに挑戦を続けていきたいと思っています。

## 【学部だより】

### ◇令和7年度行事予定

令和7年(2025年)

4月1日(火)	第1学期開始, 第1学期及び1Q履修登録期間(2年生以上)~4月8日13時まで
4月2日(水)	入学式
4月3日(木)	新入生ガイダンス(全学・学部別), 第1学期及び1Q履修登録開始(1年生)
4月4日(金)	新入生ガイダンス(全学), 2年生ガイダンス(コース・領域別) 3・4年生ガイダンス, 特別コースガイダンス(2年生以上) 編入学生・転学部生ガイダンス
4月7日(月)	新入生修学相談, 新入生コース別履修ガイダンス(学部), 新入生ノートPC設定
4月8日(火)	新入生修学相談, 新入生コンピュータガイダンス(学部)
4月9日(水)	新入生修学相談, 新入生定期健康診断, 履修登録予備日, 新入生歓迎祭
4月10日(木)	授業開始(全学共通科目, 学部開設科目)
4月17日(木)	第1学期及び1Q履修登録取消申請期間~4月23日まで
5月1日(木)	火曜日の振替授業日
5月9日(金)	火曜日の振替授業日
5月27日(火)	2Q履修登録開始~5月30日13時まで
6月2日(月)	2Q履修登録予備日
6月17日(火)	2Q履修登録取消申請期間~6月23日まで
7月21日(月)	月曜日の授業実施日
7月30日(水)	第1学期定期試験期間(全学共通科目, 教育学部)~8月5日まで
8月6日(水)	授業・定期試験予備週間~8月12日まで
8月6日(水)	夏季休業開始
9月17日(水)	第2学期及び3Q履修登録期間~9月24日13時まで
9月25日(木)	履修登録予備日
9月30日(火)	夏季休業終了・第1学期終了
10月1日(水)	第2学期開始, 大学記念日
10月2日(木)	授業開始(全学共通科目, 学部開設科目)
10月9日(木)	第2学期及び3Q履修登録取消申請期間~10月16日まで
10月14日(火)	月曜日の振替授業日
10月24日(金)	大学祭(前夜祭)(臨時休業)
10月25日(土)	大学祭(本祭)~10月27日まで
10月27日(月)	大学祭撤収日(臨時休業)
10月30日(木)	月曜日の振替授業日
11月18日(火)	4Q履修登録期間~11月24日まで
11月25日(火)	4Q履修登録予備日
12月10日(水)	4Q履修登録取消申請期間~12月16日まで
12月25日(木)	冬季休業開始

令和7年(2026年)

1月7日(水)	冬季休業終了
1月14日(水)	月曜日の振替授業日
1月15日(木)	金曜日の振替授業日
1月16日(金)	臨時休業日
1月17日(土)	大学入学共通テスト~1月18日まで
2月6日(金)	第2学期定期試験期間(全学共通科目, 教育学部)~2月13日まで
2月13日(金)	水曜日の振替授業日, 振替試験日
2月16日(月)	授業・定期試験予備週間~2月20日まで
2月25日(水)	入学者選抜試験(前期)「個別学力検査」
3月11日(水)	春季休業開始
3月12日(木)	入学者選抜試験(後期)「個別学力検査」
3月24日(火)	卒業式
3月31日(火)	第2学期終了, 春季休業終了

※1Q→第1クォーター, 2Q→第2クォーター, 3Q→第3クォーター, 4Q→第4クォーター

◇令和7年度教育実習計画

免許別実習校・年次			週	実 習 期 間	
○	主免小学校	3年次	4	高松小学校 坂出小学校	令和7年9月1日(月)～9月26日(金) 令和7年9月2日(火)～9月29日(月)
○	基礎免小学校	3年次	3	高松小学校 坂出小学校	令和7年9月1日(月)～9月19日(金) 令和7年9月2日(火)～9月22日(月)
◎	主免中学校	3年次	4	高松中学校 坂出中学校	令和7年8月25日(月)～9月19日(金) 令和7年9月1日(月)～9月26日(金)
☆	主免特別支援学校	3年次	3		令和7年10月2日(木)～10月23日(木)
△	主免幼稚園	3年次	4	附属幼稚園 高松園舎	令和7年9月1日(月)～9月26日(金) 令和7年9月1日(月)～9月26日(金)
○	副免小学校	4年次	2	高松小学校 坂出小学校	令和7年9月1日(月)～9月12日(金) 令和7年9月2日(火)～9月16日(火)
◎	副免中学校	4年次	2	高松中学校 坂出中学校	令和7年8月25日(月)～9月5日(金) 令和7年9月1日(月)～9月12日(金)
☆	副免特別支援学校	4年次	2		令和7年9月16日(火)～9月30日(火)
△	副免幼稚園	4年次	2	附属幼稚園 高松園舎	令和7年9月1日(月)～9月12日(金) 令和7年9月1日(月)～9月12日(金)

○：附属小学校 ◎：附属中学校 ☆：附属特別支援学校 △：附属幼稚園 における実習を示す。

◇令和7年度学校インターンシップⅡ（公立学校実習）計画

実習校・年次		週	地区	実 習 期 間	
公立小学校	4年次	2	高松	新番丁小学校	令和7年6月2日(月)～6月13日(金)
			坂出	希望者なし。	
公立中学校	4年次	1	高松	紫雲中学校	令和7年5月19日(月)～5月23日(金)
			坂出	希望者なし。	
香川県立 坂出高等学校	4年次	2	坂出		令和7年5月26日(月)～6月6日(金)
母校実習	4年次	2	静岡	八幡中学校	令和7年5月19日(月)～5月30日(金)
		2	徳島	海部高等学校	令和7年5月26日(月)～6月6日(金)
		2	観音寺	観音寺総合高等学校	令和7年5月26日(月)～6月6日(金)
		2	善通寺	善通寺第一高等学校	令和7年5月21日(水)～6月3日(火)
		2	岡山	築港小学校	令和7年6月2日(月)～6月13日(金)

## ◇学校教育教員養成課程の活動紹介

### 1年次の学び 大学入門ゼミ・教職概論

■令和6年度も継続実施が叶う！ 郷土の特色を生かした学びの実現を目指して…

～1年次の実地教育『二十四の瞳』と出会い、感じ、考える学習』～

教員養成課程1年次の学生は、前期に全学共通科目（必修科目）の「大学入門ゼミ」（初年次教育）を、後期には「教職概論」を必ず履修することになっています。2021年度までは7クラス編成で実施していましたが、2022年度以降、6クラス編成で実施することになりました。3つのコース（幼児教育コース・小学校教育コース・中学校教育コース）に所属する1年次生を混ぜ、28～29名程度のクラス編成する方法です。6クラス編成とすることにより、クラス別演習・ペア学級演習・2分割（3クラス+3クラス）演習など、多様な学習集団の規模を組み合わせ、授業を実施できるよう配慮しました。

特にクラス別演習授業においては、前期「大学入門ゼミ」から後期「教職概論」（学部実地教育科目）まで一貫した“ホームルーム教室”となるよう、講義室調整を行いました。併せて、クラス間連携を図り、初年次の一体感・一貫性を感じさせるため、ホームルーム教室となる講義室を、中庭を取り囲む4・5号館2階にクラス番号順に並ぶよう集中配置して実施しています。

平成26年度より毎年実施している小豆島での一日研修は、郷土の特色を生かした「二十四の瞳と出会い、感じ、考える学習」として位置づけ、毎年改善実施を行っています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症への対応として、1年次生の「大学入門ゼミ」も授業計画の大幅な見直し・修正の上で、授業を実施せざるを得ない状況となり、附属学校園への訪問も見合わせとなりました。また、本学部「大学入門ゼミ」の特徴である小豆島一日研修も、大人数での研修旅行を行うことが困難となったことを受け、令和3年11月06日（土）・07日（日）の両日、3クラス・4クラスの2グループに分散し、感染症への対策を徹底して実施するという対応をとりました。

小豆島一日研修は「二十四の瞳と出会い、感じ、考える学習」という学びの目的があるのですが、この目的と併せて、「1年次生同士の仲間づくり」というねらいも込めた研修です。このため、入学直後、できるだけ早期に実施することができるよう苦心し、旅程などの見直しを行い、令和4・5年度は4月末の土・日に実施しました。令和6年度は、貸切バスの手配などの都合により、ゴールデンウィーク明けの5月11日（土）・12日（日）に「小豆島一日研修」を実施しました。集合時の体調確認や手洗い・手指消毒の励行の指導などを行いながらも、「1年次生同士の仲間づくり」のねらいに沿った研修スタイルで実施することができた（＝コロナ禍前に戻すことができた）状況です。

ただ、過去の本紙記事において紹介したこともある、コロナ前には当たり前のように行っていた小豆島の味覚「流しそうめん」は、現時点においても実施を見合わせざるを得ないことから、令和6年度も弁当を手配し、二十四の瞳映画村で昼食をとる方法で実施しました。

お弁当は、これまで長年にわたりお世話になってきた業者が、コロナ禍後の物価高の影響を受けて（原材料費の値上げ・包装資材の値上げ・人件費の値上げなどだそうです）一食あたりの料金が倍近くに高騰したため、令和5年度より業者を変更してお願いしています。幸いにも、小豆島島内で、物価高の中にあっても熱意をもって対応いただける業者と出会うことができ、小豆島産・瀬戸内産の食材を中心に、本研修の趣旨に沿ったお弁当を、本研修のために開発・提供いただけることになりました。小豆島産の佃煮や野菜、醤油豆に始まり、小豆島で製造されたオリーブソルトを使用した「鶏もも肉オリーブハーブソルト漬けチキンステーキ」の他、

特別メニューとして「小豆島産 鯛の唐揚げ」も加えていただきました。この「小豆島産 鯛の唐揚げ」は、小豆島島内の小中学校の給食のメニューにもなっており、食育の観点から、骨抜きをせずに給食でも提供され、児童生徒は魚には骨があることを意識しながら食べているとのこと。小豆島や瀬戸内の味とともに、小豆島の学校現場での食育の取り組みにも触れることのできるこのお弁当を『小豆島の恵み満載！弁当』と銘打ち、研修にて提供しました。令和6年度の1年次生たちにも好評だったようで、映画村の浜辺に腰を下ろし、瀬戸の潮風を感じながら、五感で小豆島を味わっている様子でした。

二十四の瞳映画村では、「壺井栄文学館」で壺井栄の生涯について知り、小説『二十四の瞳』の生原稿（レプリカ・現物は文学館蔵）などを目にした上で、壺井栄文学館の館長先生よりご講話をいただきました。館長先生は香川大学のご出身で、長く香川県の学校教員として活躍された方です。壺井栄が『二十四の瞳』に込めた教育に対する思いに関するご講話とともに、大学の先輩・学校教育の先輩として、後輩であり学校教員を目指す大学1年次生に、教育の未来を託す熱いエールをいただきました。（なお、ご講話いただいた館長先生は、令和6年度を以て退職されるとのこと。来年の1年次生からお話を伺うことができないことが、残念でなりません。）

このほか訪れた小豆島オリーブ公園を含め、学生たちは研修プログラムを笑顔で楽しみながら、仲間と経験を共にする貴重な時間を、大切に過ごしていたように感じました。



小豆島一日研修 オリジナル弁当『小豆島の恵み満載！弁当』と小豆島一日研修のひとコマ

## ■アカデミック・リテラシー習得の場としての「大学入門ゼミ」

### ～学校理解を深め、教職への思いを高める「教職概論」

高校から大学への進学において、両者における学び方の差異に大きな戸惑いを感じる学生も少なからずいると思われま。す。「大学入門ゼミ」は、教育学部だけでなく全学部共通の大学教育カリキュラムであり、香川大学の学生にとって必要なアカデミック・リテラシーを習得する場として位置づけられています。具体的には、4年間の学びの基盤として、{情報整理の方法、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法}の4つの内容について、全学部共通に学んでいます（これらの内容を「共通コンテンツ」と呼んでいます）。それら共通コンテンツについては、授業内で取り扱うだけでなく、それらの授業を通して得た知識・スキルを活用する機会として、「大学入門ゼミ」後半において、学校園に関して自分の探究課題を設定し、文献などをもとに調査した結果をプレゼンにまとめ報告する演習活動「学校園を『探究』しよう」を実施しています。

また「学校園を『探究』しよう」の実施に併せ、1年次後期開講科目「教職概論」ともリンクさせて、1年次生が初めて学校園を訪問し、学習活動・保育活動を参観する機会として、「附属学校園訪問」を実施しています。この訪問は、教育実践について関心を持ち、学生一人ひとり、自分が目指す

教師像の具体的イメージを創ることをねらいとしています。コロナ禍においては、児童と学生との交流活動は行わず、自由時間にも遊びの様子を観察する程度でしたが、令和5年度以降は児童生徒の近くで様子を観察したり、会話を交わしたり、関わって遊んだりすることも実現（再開）することができました。

続く後期開講科目「教職概論」では、幼稚園・小学校・中学校と、自分が教師として目指したい学校園種に合わせた選択型の講義・演習内容を一部導入するなど、1年次の実地教育のテーマである「学校理解」の充実に向けた改善を図っています。

## ■授業支援システム「ロイロノート」と一人一台端末を活用して学ぶ演習プログラム

本学では令和3年度より、一人一台のノートPC・タブレットPCの購入を入学時に求めることとなり、一人一台の端末を活用した授業を行うこととなりました。併せて教育学部においては、令和3年度より、moodle・zoom等とは異なる「授業支援システム『ロイロノート』」を、学生が授業において活用しながら受講することができるよう整備しました。この環境は、[GIGAスクール構想]により全国の国立・公立・私立の小・中・高等学校に整備されているタブレット端末と併せて、授業において活用するために整備されている「授業支援システム」と同様の学習環境です。

教師を目指す上で、現在全国の学校に整備されている授業支援システムを1・2年次のうちに「自らが活用して学ぶ」経験を通して、3・4年次で「授業で活用して指導することができる教員」としてのスキルを高めることを、教員養成における指導に位置付けることが重要だと考えています。

令和3年度より、この授業支援システム「ロイロノート」を、共通コンテンツで得た知識・スキルを活用して取り組む学習活動「学校園を『探究』しよう」(上述)において活用しています。学校園について探究した結果を、ロイロノートのカード上にプレゼンテーションとしてまとめ、成果報告活動を行いました。学生たちは短期間のうちにスキルを獲得し、また分かりづらい操作については仲間同士で教え合う姿も見られました。

令和5年度、1年次生における様々な学習活動を、コロナ禍前に近い状態でようやく再開実施することができ、令和6年度も継続実施することができました。教職への憧れを胸に本学教育学部に入学した1年次生たちの思いや願いを支えることのできる、1年次の実地教育における多様な取り組みを、改善を加えながら、引き続き推進していきたいと考えています。

◇教員の研究活動紹介

研究紹介：『源氏物語』の魅力

国語領域 北原 圭一郎



私の専門分野は日本古典文学で、特に研究対象としている作品は平安時代の『源氏物語』です。

『源氏物語』は、主人公光源氏の生涯を中心とする54帖の長編物語です。一般に光源氏の奔放な恋物語のイメージが強い作品ですが、人が生きる上で経験する普遍的な苦悩が語られていることが魅力です。

例えば、光源氏と恋愛関係になることでかえって苦悩を背負い込む女性たちがいます。光源氏への断念できない恋心から無意識に生霊化してしまい苦しむ六条御息所、没落した家の再興という父の夢のために故郷や子供と離れ忍従を強いられる明石の君、晩年に第一の妻の座を失い男女の愛のあり方に悩む紫の上などはその代表です。

そして光源氏自身も、父帝の後である藤壺との禁忌の恋と不義の子の誕生を契機として、栄華の頂点への道を歩んでいきますが、その裏側では多くの犠牲を払うこととなります。一時は全てを捨てて須磨に流離し、藤壺ともその仲を隠蔽するために最後まで心を交わし合うことはできません。晩年には若き妻女三の宮の密通を知りかつての過ちを一身に背負って生きていくこととなります。光源氏は、現実をはるかに超越した面を持ちながらも、苦難を経て年齢と共に成長していく人間らしい主人公でもあるのです。

このような壮大な物語を理解するために私が最も注目しているのが和歌です。平安貴族社会において、和歌は文芸作品であるのみならず、日常的なコミュニケーションの道具でもありました。異性に恋心を伝える時、大切な人と別れる時、宴会で同僚たちと楽しむ時など、平安貴族は様々な場面で和歌を詠みました。物語中でも、作中人物の詠む和歌が795首も挿入されており、この表現を読み解くことで、人物同士の関係性や複雑な物語の仕組みをより明らかにすることを課題としています。

古典文学研究の役割は、言葉も時代背景も一見分かりにくい古典文学の魅力を掘り起こすこと、それを次世代に継承することだと考えています。そのためには、学問として客観的・実証的であらなければならない一方で、一人の読者として真に共感できる解釈は何なのかを追求する視点も欠かせません。これから社会に出ていく若い学生たちには、多様な文学体験や人間関係を通じて、研究手法と文学的感性を磨いてもらいたいと思います。何より『源氏物語』は、読み手の立場や経験、時代によって様々な解釈を許容する奥深い作品なのです。

『源氏物語』以外にも、古典文学には魅力的な作品が沢山ありますが、香川県は古典ゆかりの人物や場所に恵まれています。『平家物語』の舞台である屋島、『雨月物語』「白峯」の舞台である白峯山、日本最古の芝居小屋である琴平の金丸座、現在大河ドラマで話題の戯作者でもある平賀源内の生家などです。ぜひ多くの方々に古典文学に馴染みを持ってもらいたいと思います。

研究紹介：非線形偏微分方程式の解の振る舞いを追い求めて

数学領域 宮崎 隼人



現代数学は大きく分けて、整数などのものの集まりの構造を探る代数学、関数などの定量的な変化を考察する解析学、図形や空間の曲がり具合などを考察する幾何学の3つの分野に分かれています。私はその中の解析学の一大分野である微分方程式を研究しています。「微分」と聞くと難しく感じる方も多いかもしれませんが、実は身の回りのさまざまな現象が微分方程式で記述できます。

たとえば、砲丸投げの放物運動や熱の広がり、太鼓の膜の振動、お風呂の水面にできる波——これらはすべて微分方程式で記述できます。数式で表現できるということは、その現象の未来を予測できるということです。天気予報が最近当たりやすくなったのは、ナビエ・ストークス方程式と呼ばれるちょっと難しい方程式を、スーパーコンピュータを使って高速に解いているからです。そうやって世の中の役に立っている微分方程式ですが、多くの課題があります。複雑な現象を表すほど方程式も複雑になり、「本当にこの方程式が予測したい現象を正しく記述できているのか？」という確認が必要です。しかも、そうした方程式は解けるかどうかさえ簡単にはわかりません。ここでいう「解ける」には、二段階の意味があります。まず、方程式に解が存在するかどうかを確認する必要があります。中学や高校で学ぶ方程式のように「 $x = \text{いくつ}$ 」と簡単に求まることは稀です。そもそも解が存在しないこともあり、それは立てた方程式が現象を適切に記述できていないことを意味します。解の存在が保証されたら、その解の性質や振る舞いを理解することが重要です。これは、現象の正確な未来予測につながります。こうした理論をもとに現象のシミュレーションを行いますが、方程式が複雑になればなるほど、コンピュータで数値的に解くのも困難となり、数値計算による解と本当の解との誤差も大きくなります。これを克服するためには、数学の理論自体を発展させることが必要です。私はそのために、世界中の研究者と日々議論を重ね、共に論文を執筆するといった活動を行っています。

このような研究生活を送る中で、「研究者になってよかった」と感じるものがいくつもあります。まず、研究を通して日本だけでなく世界中を旅できることです。数学の研究では、直接顔を合わせ黑板に向かい議論することが不可欠です。2017年度には、私はアメリカ・カリフォルニア大学サンタバーバラ校に約1年滞在しました。そこでの公私にわたる経験は、私の価値観や視野を大きく広げるものになりました。さらに、国内外の数学者との交流を通じて、多くの友人ができました。多様な文化や価値観に触れることは、私自身の人間的成長にもつながっています。教育学部では、子ども理解のための多様性の尊重が重要になると思います。私はこれからも研究を通じての出会いを大切に、異なる文化や価値観への向き合い方を学び続け、それを学生たちに還元していきたいと考えています。

## 研究紹介：近代における造形芸術と音楽芸術の比較、及びデザイン教育について

美術領域 尹 智博



私は美術領域でデザイン教育を担当しています。

初めに昔話を。5歳の頃からピアノを習い始め、地域の児童で構成されている吹奏楽団に入り、気がつけば長く音楽に関わっていました。高校生の時には、生まれ育った地である、大阪府内の選抜吹奏楽団のコンサートマスターに選ばれたりもしました。こうした経験から、進路を決める時には音楽大学に進むか迷いつつ、結果、芸術大学に進みました。

大学生の時は建築デザインを専門とし、1級建築士の資格を取り（今は受験資格だけ持っていますが未受験）デザイン事務所を立ち上げる事を夢見ておりましたが、気がつけば大学教員になっていました。昔から何か1つを追求する。というよりは、様々な事に広く浅く関わり、その時々に関心を持つ事に集中して取り掛かる事を行っていましたが、大学教員になるきっかけは、本研究紹介でもある「近代における造形芸術と音楽芸術の比較」になります。

近代芸術の特徴は「速度」と「均質化」であり、この「均質化」について造形領域も音楽領域も新しい表現を試みていました。音楽領域においては、現代音楽の父と称されるアーノルト・シェーンベルクが、無調性（技術的には音の登場回数の均質化）をテーマに十二音技法と名付けた独自の作曲技法を考案し、音楽の作曲に自動生成の手法を取り入れました。私はこのシェーンベルクの十二音技法を中心に、同時代の造形芸術家達との作品間にある共通する制作手法、思考の類似性について、文献や楽譜、絵画、彫刻作品などから見出す事を試みています。学部4年生からこの研究を始め、博士研究や科学研究費の採択課題など、現在に至るまでこれを継続しています。

一方で修士課程への進学時に、こうした研究を進めていくなら「自動生成の作品を自分でも作れる様になりなさい。」と指導教員から無茶ぶりを受け、そこからプログラミングを独学で勉強し始める事になり、今では造形作品を制作する時のほとんどがプログラミングを用いたアルゴリズムミックデザインによるものとなりました。デザインに特化したプログラミング言語は多々あり、上述した通り、広く浅く関わる性格である為に、Sonic-pi (Python), Arduino (C), openFrameworks (C++), processing (Java), MAX, Grasshopperなどの言語を扱える様になり、こうした言語を用いて造形や音楽の制作を行っています。

前任校では、これらの言語を用いたコンピュータ教育、また比較芸術論などの授業を担当していました。一方で、芸術系の高等教育機関においては造形教育がどんどん先に進みますが、ICT教育を掲げる小学校・中学校の造形教育にその循環が無い事に疑問を感じ、小さな事でも良いのでデザイン教育の循環を起こせればと思い2022年に香川大学教育学部に異動しました。

どこまでこの教育循環に関われるかは分かりませんが、今後の活動を通して、デザイン教育の普及に貢献出来ればと考えます。

研究紹介：生きる力の基盤となる道徳性の育成

教職大学院 植田 和也



『星の王子さま』などで著名なアントワーン・ド・サン＝テグジュペリ（1900～1944）の言葉に「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」の名言があります。私の研究は、その目には見えない心の問題や内面的資質とも言われる道徳性の発達や育成に関するものです。そこで道徳の授業研究や効果的な校内研修の在り方について、学校現場でもともに学ばせていただくこともあります。

道徳性の発達に関しては、多様な研究がこれまでもされていますが、なかでもローレンス・コールバーグの道徳性発達理論をベースとした考えが道徳の教材や授業等にも活用されています。コールバーグの道徳性発達理論は、「子どもの道徳性の発達を、ある問題に対する認知や判断の際の理由づけを大切に理論」とも言われています。私自身も、大学院において、コールバーグ理論を学びながら、環境と開発の問題、規則と公正の問題に係る道徳教材を開発したり授業実践で子どもの道徳性の分析に取り組んだりしました。しかし、見えないものを子どもが表現した理由づけなどから分析しても限界もあります。そのようなことも踏まえながら、子どもの心の育成につながる道徳科の授業づくりを追究しています。

現在は、教職大学院で院生とともに、いじめ問題に関する教材の分析、道徳的な問題に対する子ども自身の自己内対話、授業の在り方を探究する校内研修の在り方などに取り組んでいますが、学校現場は働き方改革のなかで研修の時間も確保しにくい現状があります。そこで、昨年度は、「15分・30分道徳校内研修」に関するシート集を刊行し、道徳ラボ（四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の研修、土曜日の午後などに実施し、教員は自主参加）などの研修の場を通じて紹介しています。

道徳の時間は、平成27年3月に学校教育法施行規則が改正され、「特別の教科 道徳」が誕生しました。いわゆる道徳の教科化です。学習指導要領解説特別の教科道徳編には、「人格の完成及び国民の育成の基盤となるものが道徳性であり、その道徳性を育てることが学校教育における道徳教育の使命である。」と明記されています。しかし、小学校並びに中学校の教育課程において、特別の教科道徳の時間は週1時間のみです。

道徳教育の充実・推進には、「道徳教育推進教師を中心とした指導体制」の充実など、学校全体で取り組む道徳教育研修の充実が求められています。厳しい状況下の学校現場ですが、研究の一端が質の高い道徳科の授業実践や道徳教育が推進されるための力量形成を図ることにつなげられるとともに、子どもたちの豊かな心の育成につながることを願いながら、一層精進してまいります。

## ◇交流教員の活動紹介

香川県教育委員会との連携により、公立学校の現職教員3名が大学教員（准教授）となり、教員としての実践的な指導力を学生に育成するための教育活動を行っています。今年で23年目を迎えます。

### 1 学校現場に即した授業の充実

#### (1) 学部において

交流人事教員が教育現場での経験を生かし、教育課題をもとにした授業、実践的な授業の実施に努めています。主に担当する授業科目は、「授業実践論」「教職研究Ⅰ（教育法規入門）」「保育・教職実践演習」「教職研究Ⅱ」「学校教育課程論」「生活科授業研究」等です。学生と共に教育現場を踏まえた課題・内容についての演習や協議を行い、考えを広げ深めることをねらいとしています。

4年生を対象とした「授業実践論」では、交流人事教員全員が指導を行っています。授業内容は、授業づくりの理解に加え、「就職セミナー」（学生支援専門委員会主体）や「教職自主サークル」（学生主体）と連携し、教職をめざす学生が具体的なイメージをもって内容を理解できるように演習を行っています。「就職セミナー」とのタイアップでは、学部教員のご協力のもと、個人面接、集団討論・グループワーク、模擬授業の指導・アドバイスを受けられる活動にしています。学生は教員採用選考試験合格や基本的教育技術の習得に向けて、教育に関する見方・考え方を広げ、教職の知識・技術を主体的に学ぼうと意欲的です。基本的な授業づくり（学習課題設定、発問、板書の仕方等）を学び、学習指導案の作成の後、実際に模擬授業や授業討議を行うことで、学校現場で「生きる実践力の芽」を育てています。



【授業づくり】互いに見合いコメント

3, 4年生の多くが受講する「教職研究Ⅰ（教育法規入門）」では、教育の最高法規である教育基本法をはじめ、関係教育法規（学校教育法、地公法、教特法等）や答申・通知等について事例をまじえて講義し、法の上の教育理念、子どもの学びの保障、教員の身分や職務など、教育に携わる身として必要な理解を深められるようにしています。また、県教育委員会と県教育センターの指導主事の先生方を客員教授として迎え、「教育法規とケーススタディ」をテーマに重要な内容をわかりやすく学べる授業を通して、学生の教職への意欲向上を図っています。

4年生後期の「保育・教職実践演習」では、4年間の学修を踏まえて、「授業づくり」「学級経営・生徒指導」等のテーマをもとに経験や考えを交流し対話する演習を行っています。各クラスでの活動も取り入れており、「チーム学校」を体験しながら、課題に対して多様な見方や考え方を見出し、話し合いを深めていく姿が多く見られます。このような活動を通して、問題意識をもつこと、協働して考えること、互いのよさを生かすことなど、関係性づくり、コミュニケーション力を高める機会にもなっています。

「生活科授業研究」では、高松市立新番丁小学校の1年生を大学に招き、「あきとなかよし」の授業を学生主体で計画し実践しています。実際に児童と関わり合うことで、思いや気付きに触れることができるため、児童理解や学習活動について、新たな発見や課題を見出すことができ、今後の学びにつながるものとなっています。



【生活科授業研究】「あきとなかよし」  
～いろいろなはっぱがあるよ！～

#### (2) 高度教職実践専攻（教職大学院）において

交流人事教員のうち1名は、主として高度教職実践専攻（教職大学院）教員として活動しています。担当授業の一つである「道徳授業の実践研究」では、話し合いや書く活動、体験的活動など、道徳科に生かす多様な表現活動について、具体的な実践事例を基に演習を交え講義を行っています。また、「授業力開発実習」では、個別指導する院生の研究課題に沿った授業実践に関わり、教材研究のあり方や具体的な授業づくり、学校現場での教師の仕事について、実践を通して指導しています。さらに「教職実践研究」では、研究課題に関連した先行研究や実践事例を紹介したり、院生が実習を通して学びを深めたことを価値づけたりしながら研究上の疑問を解決に導く指導、助言を行っています。学校現場での豊富な実践経験という交流人事教員の最大の強みを生かし、理論と実践の融合を図る研究となるよう指導に努めています。

## 2 教育委員会・学校との連携

県や市、地域ブロックでの研修会における講師や指導助言者として、大学での研究をもとに現職教員と学び合う機会をもっています。また、学生においては、学校から校外学習サポートや学習支援などの依頼を受けることが多くあり、その際には、児童・生徒への関わり方について相談に乗る等、学生指導を行っています。その他、卒業研究に係る授業参観、アンケート調査の依頼、研究会への参加等、学生が学校現場に出向き、様々な体験ができるよう、その仲介役を務めています。

また、円滑な高大接続の推進を目的として、県内の高等学校との連携にも力を入れています。総合的な探究の時間における研究アドバイザーや土曜日の自主学習のチューターとして学生を高校に派遣したり、交流教員が高校の探究発表会で指導助言を行ったりするなど、高校生の探究的に学ぶ力の育成や進路意識の向上につながる取組を進めています。

このように、県・市町教育委員会や教育機関、学校と大学との橋渡し役としての役割も果たしているところです。

## 3 学生の教員採用選考試験突破へのサポート ～「教職自主サークル」と「教育相談」～

授業の他にも「教職自主サークル」(毎週月曜 18:00～19:30)や「個別指導・相談」(授業時間以外の時間)などを通じた学生支援を行っています。「教職自主サークル」は、多くの教員志望の学生の自主的な勉強会であり、3名の交流人事教員はオブザーバーとして学生の主体性を尊重しながら適宜指導・助言を行っています。また、個人やグループでの指導を望む学生も多く、願書作成、模擬授業、集団討論、個人面接などの個別指導や進路に関する悩みなどの教育相談も行っています。個々の学生とのつながりや理解を深める貴重な機会となっており、力を入れて取り組んでいます。

## 4 学生と共に行う地域貢献

10月に開催されている「未来からの留学生(教育学部フェスティバル in 香大)」では、「おはなしの国」の講座において、学生への支援を行っています。昨年は2公演で約80名の参加があり、子どもたちも保護者も笑顔で楽しむ様子が見られました。学生たちにとっては、創作劇の発表や音楽に合わせた遊びを通して、子どもたちとの関わりを学ぶ貴重な機会となっています。また、学生一人ひとりが役割をもち協力する中で、仲間意識や協働性の向上にもつながっています。



「おはなしの国 2024」

## 5 本年度着任の交流人事教員

### 【教育実践 准教授 大和田 俊(おおわだ しゅん)】

この4月に、香川県教育委員会との交流人事教員として、香川大学に着任いたしました。私自身は、平成26(2014)年度より7年間、香川大学教育学部附属坂出中学校で教員として附属学校の教育や研究に携わらせていただきました。この附属坂出中学校での経験は、私の教員生活の中でも多くの出会いや学びをいただいたものでした。特に、授業の「本当の楽しさ」を学ばせていただいたことが、今でも私の教員人生の大きな財産となっています。おもしろおかしく笑える授業だけでなく「真剣に考える」楽しさ、正解を分かりやすく教えるだけではなく、子どもたちと一緒に「共に考える」楽しさ、そういった授業の「本当の楽しさ」を、私は附属坂出中学校の生徒から教えてもらいました。この度、ご縁があって、香川大学で勤めることになり、大変嬉しく思っています。そして、附属坂出中学校の7年間で子どもたちに教えてもらったこの授業の「本当の楽しさ」を、今度は恩返しとして、一人でも多くの学生や学校現場の先生方に伝えていけたらと思っています。



教育学部の学生は、目的意識の高い仲間とともに、大学生活を楽しみながら、様々な教育課題に対して自ら問いかけ、主体的に探究しています。中学校現場での経験が長い私にとって、大学生との交流は大変新鮮で学ばされることも多いです。また、昨今、教師という仕事の大変さや負担感が大々的にクローズアップされている中で、それでも「教員になりたい」「子どもたちのためにがんばりたい」と真剣に考え、努力する学生の姿に、私自身も励まされ、何とか少しでも力になれるよう日々奮闘しています。

教員を目指す学生たちが実践的な指導力を身に付け、将来、学校現場に出たときに、自信と希望をもって子どもたちの前に立つことができるように、微力ではありますが支援してまいりたいと思います。今後ともご指導、ご支援のほど、よろしくお願いたします。

## 【地域連携】

### ◇香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

#### I 協議会関係

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	○ 連携協議会 (R7.2.3) ○ 幹事会 (R7.1.23) ○ 専門委員会 開催なし	連携協議会開催 (R8.2 予定) ・ 幹事会 (1 回程度)	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	○ 令和5年度実績報告書作成	・ 令和6年度実績報告書作成	

#### II 連携関係

##### 1 教員養成に関するもの

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	○ 坂出市立坂出小学校 1名 ○ 高松市立協和中学校 1名 ○ 母校実習 7名 ・ 香川県 (香川県立坂出高等学校 2名) (観音寺総合高等学校 1名) (香川県立聴覚支援学校 1名) ・ 兵庫県 (高等学校 1名) ・ 岡山県 (小学校 2名, 高等学校 3名)	・ 継続実施	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	○ 教員採用内定者が公立学校で研修 ・ 対象者：45名 ・ 実施期間 令和7年1月～3月 (5日程度)	・ 継続実施	資料1
③教職大学院における公立学校等での実習 〔担当：教育学部〕	○ 高度教職実践専攻における実習連携協力校 12校の連携協力校 (高等学校3校, 中学校3校, 小学校6校)	・ 継続実施 44校園の連携協力校 (県立特別支援学校2校, 高等学校3校, 中学校13校, 小学校24校, 幼稚園2園) ※新たに2校 (小学校1校, 中学校1校) 追加予定。	
④公立学校教員等の活用 (県教育センター) (義務教育課) (高校教育課) 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	○ 教育実践集中講座の実施 ※教育関係職員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義 ・ 退職校長 (日下哲也) 主任指導主事 (太田隆志, 一田幸子) ・ 年間2期, 1人20～25時間程度の講義 ○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義	・ 継続実施	資料2
	○ 現職教員等3名を大学教員 (准教授) として採用 (H15.4.1～) 倉野晴代, 川東芳文, 中名紀子	・ 継続実施	資料3
⑤大学教員の公立学校現場での研修制度 (義務教育課) 〔担当：教育学部〕	○ 大学教員が公立学校現場で研修 ※R6年度についても実施せず。	・ 継続実施	

2 教員研修に関するもの

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 内地留学の実施 (H19.8名, H20.7名, H21.8名, H22.7名, H23.6名, H24.5名, H25.5名, H26.5名, H27.5名, H28.11名, H29.10名, H30.10名, R1.10名, R2.6名, R3.4名, R4.8名, R5.9名, R6.8名) ・教職大学院学校力開発コース 2名 ・教職大学院授業力開発コース 3名 ・教職大学院特別支援開発コース 3名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施 (令和7年度は7名の予定) ※7名の内訳(義務教育課6名, 県立(特支)1名)	
②教員免許状取得のための研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(8月~9月)への大学教員の派遣等	・継続実施	資料4
③(免許法認定公開講座) [担当: 教育学部]	○ 小学校の現職教員が中学校教諭免許状(英語)を取得するための免許法認定講習を実施(6講座, 7単位)	・令和6年度で終了予定	資料5
④指導改善研修 (県教育センター) [担当: 県教委]	○ 対象受講者がなかったため, 未実施	・未定	
⑤教職員研修 (県教育センター) [担当: 県教委]	○ 初任者研修・職務研修の講師・助言者として大学教員を派遣 ○ 令和6年度「小中教育指導研修会」の研修企画の指導・助言 ○ 教職大学院連携研修講座として6講座を実施。 ・資質・能力を育む教科の授業づくり 19名 ・道徳科の授業づくり 43名 ・教育効果を高めるためのICT活用法 36名 ・授業における特別支援教育 51名 ・学校の危機管理研究I-① 3名 ・学校の危機管理研究I-② 3名	・継続実施 ・研修講師を派遣 ・継続実施 ・「資質・能力を育む教科の授業づくり」を「学習における子どもの認識や理解の仕方について」に変更	
⑥特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 内地留学の実施 (H25.2名, H26.2名, H27.2名, H28.2名, H29.2名, H30.2名, R1.2名, R2.1名, R3.1名, R4.1名, R5.1名, R6.2名) ※R6は, 義務1名, 特支1名	・継続実施	
⑦教員研修連携科目の実施 (管理職候補者研修会) (義務教育課) [担当: 県教委]  [担当: 教育学部]	○ 管理職候補者研修会年8回のうちの2回を香川大学教職大学院開講の「学校の危機管理研究I」として実施(大学教員が担当) ○ 学校の危機管理研究I(集中・1単位) 7月31日 56名(うち院生4名) 8月1日 55名(うち院生4名) ○ 学校の危機管理研究II(集中・1単位) 9月7日 10名(うち院生4名) 9月14日 10名(うち院生4名)	・継続実施	資料6
⑧教職大学院科目等履修制度の創設 (義務教育課) [担当: 教育学部]	○ 教員研修連携科目を履修する場合, 事前に「教職大学院科目等履修生」として申請・登録して履修することにより, 「教職大学院科目等履修単位」として認定する。 ※上記⑦の受講者のうち, 科目等履修生として受講した者 ・学校の危機管理研究I(集中・1単位) 7月31日, 8月1日とも 6名 ・学校の危機管理研究II(集中・1単位) 9月7日, 14日とも 6名 ○ 「教職大学院科目等履修単位」を取得した者が教職大学院へ入学した場合は, 当該科目を取得済として認定する。	・継続実施 ※引き続き, 管理職候補者及び「小中教育指導研修」受講者へ積極的に働きかける	

3 調査・研究に関するもの

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) [担当: 県教委]	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業 ・課題解決型学習実践モデル校事業 ・国際理解教育推進モデル校 ・幼児教育支援員派遣事業 ・豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進	・継続実施 (事業内容については検討中)	資料7
②香川県学力等調査結果 分析検討会議 (県教育センター) (義務教育課) [担当: 県教委]	○ 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析に対する指導助言	・継続実施	資料8

4 事業に関するもの

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) [担当: 県教委]	○ 大学教員を講師として派遣 ・高松桜井高 ・高松商業高 ・高松西高	・継続実施	
②高大連携 (高校教育課) [担当: 県教委]	○ 高校生が香川大学の公開授業や体験授業に参加 公開授業: 1学期 26名, 2学期 18名 体験授業(夏休み): 24名	・継続実施	
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) [担当: 県教委]	○ 学生ボランティア派遣事業(登録者52名) ・学習指導の補助, 学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター(適応指導教室)に52名を派遣(R6.12.1現在)	・継続実施	
	○ 「放課後子ども教室」支援ボランティア等の募集	・継続実施	
⑤未来からの留学生 [担当: 教育学部]	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催(県教育委員会後援) 約1000名が参加	・継続実施	資料9
⑥県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・継続実施	
⑦各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) [担当: 県教委]	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・継続実施	
⑧生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) [担当: 県教委]	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開した。	・継続実施	
⑨特別支援教育総合推進事業 ・専門家チーム ・巡回相談 ・特別支援教育コーディネーター協議会 ・就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会 (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 特別支援学校のセンター的機能での教育相談や特別支援学校に在籍する幼児児童生徒に対する指導の困難事例についての指導助言 ○ 特別支援学校を訪問し, 幼児児童生徒への指導内容・方法, 学校の支援体制について指導助言 ○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義	・継続実施	
⑩全ての学校・全ての学級における特別支援教育体制構築事業 (特別支援教育課) [担当: 県教委]	○ 特別支援教育に関する, 教員に必要な資質能力の指標作成や教員のキャリアに応じた研修内容等についての協議	・継続実施	資料10

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資料
⑪令和5年度(独)教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター開発支援事業 〔担当：教育学部〕	○ 四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の本事業を本学教職大学院との共催において実施。令和6年度は3つのラボ研修会を通じて、主に四国内の教育関係者を対象に各教員の資質・能力向上につなげる内容を教育関係機関や多くの先生方との連携・協働で提供してきた。道徳(2回)保健室(1回)授業づくり&ICT(2回)、県教員センター指導主事等の協力を得た。道徳15分・30分研修デザイン支援シート集を3月に発行予定。	・次年度も多様な形で継続実施を検討。  四国内の大学教員の協働で道徳教育研修DVDを作成予定。	
⑫坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業(高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 大学教員による指導等 ・ 出前講座の実施(9回) ・ グループ研究指導(3回)及び研究室訪問受け入れ ・ 大学訪問の受け入れ(1回) ○ 附属学校における活動(計11回) ・ 附属坂出小学校(6回) ・ 附属坂出中学校(4回) ・ 附属坂出幼稚園(3回) ・ 附属特別支援学校(1回) ○ 教育創造コースの教育内容に関する検討	・ 継続実施	資料11
⑬教員研修の高度化推進事業(2.教員研修の高度化モデル開発事業)(県教育センター) 〔担当：教育学部〕	○ 香川大学が文部科学省令和4年度第2次補正予算「教員研修の高度化推進事業(2.教員研修の高度化モデル開発事業)」を受託。開発テーマ「香川型研修奨励システムの構築－教員と校長のlon1対話支援ツール」を共同開発 ○ 香川大学と県教育委員会は、システムの運用に係る覚書を締結し、システムの運用を開始	・ システムの運用を検討	資料12

## 5 その他

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資料
①附属学校への教員派遣(義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 令和6年度新規派遣 ※ ( )は合計数 ・ 附属高松小 4(25)・附属高松中 3(19) ・ 附属坂出小 3(18)・附属坂出中 3(19) ・ 附属特別支援学校 3(13) ・ 附属幼稚園 1(5) 計16名(99名)	・ 継続実施	

## 参照

### 6 香川大学の取組

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資料
①SDGs教育プロジェクト 〔担当：教育学部〕	○ 附属学校と学部との共同研究 ○ イベントの実施等(主なもの) ・ KSDGsおもしろワクワクサイエンス展(8月4-5日)・ブルネイ国の子どもたちと食文化を考えよう!(8月5日)・日独SDGsシンポジウム開催(10月18日)・「SDGsを学問する」講演会(11月21日)  ・ 全学共通科目「SDGs学入門」企画と運営・創発科学研究科共通科目「フィールドスタディ」企画と運営	・ 継続実施	資料13

◇第 23 回「未来からの留学生」

第 23 回「未来からの留学生」についてのご報告

実行委員長 吉川 暢子

第 23 回未来からの留学生を令和 6 年 10 月 13 日（日）に実施致しました。

事前予約では、多くの申し込みをいただき、その中から約 520 名のみなさまに講座当選のメールをお送りさせていただきました。当日は講座に参加されるお子様だけでなく保護者やきょうだいのみなさまなど合わせて約 1000 名の地域の方にご参加いただきました。

「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな目的をもつ一方、教育学部 2 年生の学生が主体となり活動の企画・運営を通じて、子どもとの接し方を学ぶという目的を併せもっております。

第 23 回未来からの留学生では事前の完全予約制として、午後からの開催としています。学生が所属する各領域から合計で 33 講座が展開されました。一人でも多くの子もたちが参加できるように昨年度よりも 5 講座を増やしました。また、当選された方ならどなたでも参加できる自由講座も 3 講座、新規開講しました。

特に本年度、開講された自由講座の中にある「Zutt Mott ふるさと」は香川県教育委員会事務局義務教育課の協力のもと開講され、たくさんの子もたちがかるたやふるさとを知るクイズなどを楽しみました。各領域の学生からの報告書には、企画・実践・振り返りを通した学びの成果や、子どもとのかかわり方への気づきについての学生の記述が多数見られました。これらの記述から、本事業における学生の成長を実感しております。

最後になりましたが、香川県教育委員会および香川大学教育学部後援会様のご支援を受けて実施され、教育学部事務職員、各領域担当教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本年度の活動の実施に関しまして多方面からご尽力頂きましたことに深く感謝いたします。



## 【国際交流】

### ◇ 2024 年度の国際交流活動

#### A Busy and Successful Year!

2024 度 国際交流委員長 ポール・バテン

2024 度は、活発的な国際交流の一年でした。

6月にアメリカ・コロラド州立大学からの留学生12名と教員1名を受け入れました。8月に同大学の国際交流担当を表敬訪問及び小学校英語の授業で国際交流のメリット・外国語学習・ALTの経験について講演いただきました。6月より台湾国立嘉義大学からの学生8名を2週間ほど受け入れし、附属高松小学校で英語の授業を実習として1名2回ほど行いました。8月にはコロラド州立大学への短期訪問、2・3月に学生を4名、1ヶ月ほど派遣しました。

8月29日よりThe Third Trilateral Symposium on Sustainabilityがチェンマイ大学で開催されました。教育学部から学部長も含め7名の教員が発表して参加しました。本活動によりSDGs教育及びグローバル化教育に関しての知見が深まり、教育・研究面に多大な効果をもたらすものと考えられます。チェンマイ大学附属中学校と教育学部両附属中学校のオンライン交流も今年度も6・7月に活発的な交流になりました。シンポジウムの前日にKagawa University Alumni Reunionに教育学部で短期期留学に10年前に参加したチェンマイ大学学生数名参加しました。また、10月にチェンマイ大学附属中学校の教員2名が附属高松中学校に訪問しました。

2025年2月～3月、タイ・チェンマイへの短期留学プログラム(11名)、台湾国立嘉義大学へ(5名)、コロラド州立大学に8月にPLAC Eの英語学習センターに学生4名、2・3月に4名(うち教育学部2名)の短期交流プログラムが実施されました。27年間も続いているニュージーランドの協定校のクライストチャーチ工科大学に学生4名を3月と9月に短期派遣しました。教職大学院生2名も派遣しました。同大学の斡旋で現地の学校での授業参観しました。

教育学部として、グローバルな資質能力を伸ばすため、2024年度から初めて海外日本人学校での教育実習(学校インターンシップⅢ)を正規に実施することになりました。学生2名を派遣しました。多くの教職員、学生の力によって実現できましたが、これもひとえに後援会の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。

以下教員、教員・学生の報告を掲載します。



### タイ・チェンマイ短期留学

幼児教育コース 教授 吉川暢子

タイにあるチェンマイへの短期留学では2025年2月17日から3月2日を前期のプログラムとして9名が参加。後半のプログラムでは2名の学生が引き続き3月20日までチェンマイに滞在しました。

前期では佐藤明宏名誉教授が引率し、チェンマイ大学デモンストレーションスクール、ワッタノイタイ高等学校へ訪問しました。ドイ・インタノンにある村にホームステイをし、幼小中学校で子どもたちと日本文化交流をしたり、象のキャンプに参加しました。

後期前半(3日～11日)は杉田貴瑞准教授が引率し、バンコクにあるデモンストレーションスクールやマヒドン大学へ訪問しました。後半後期(12日～20日)では吉川と共にバーンカーンワットにてタイの漆工芸のワー

クショップに参加し、ステンシルや金箔を使った漆作品をつくったり、クラブにある島を巡り、シュノーケリングを楽しみました。

このプログラム期間において、チェンマイ大学の先生方、ハディとして生活面のサポートだけでなくチェンマイの文化やさまざまな情報を共有してくれた学生たち、プログラム中ずっとお世話になったホステルのオーナーなどたくさんの方に支えられました。

短期留学の中で、さまざまな人との出逢いがあり、チェンマイの価値観や習慣に触れる中で異文化への理解が深めることができました。そのような時間を過ごせたことは学生たちにとって、とても貴重でかけがえのないものとなったといえるでしょう。



## タイ・チェンマイ短期留学国際交流体験記

教育学部 2年生 時岡桃子

私は人生で初めて海外に行きました。それがタイ、チェンマイで本当に良かったと思っています。タイでは、目に映る全てのものが新鮮で、毎日とても楽しく過ごすことができました。どれもこれも、すべてタイのパディ達のおかげだと思います。彼らはとても親切に、そしてフレンドリーに私たちに接してくれ、一緒にタイガーキングダムへ行ってトラと写真を撮ったり、美味しいご飯を食べに行ったりしました。最後に別れる前、お昼にみんなでピザパーティーをしたことがとても心に残っています。すごく楽しかったです。

また、私は、長期のプログラムに参加し、長期でしかできないさまざまな経験をすることができました。例えば、ジンジャイマーケットに行き、気に入ったアーティストの作品を購入したり、バンコクへ行ってマヒドン大学を訪問したり、すごく美味しいタイティーを飲んだり、タイの民族衣装を着て写真を撮ったりと、本当に毎日刺激的で濃い日々を過ごしました。特に、クラブへ行って人生で初めて海で泳ぎ、それも、手が届きそうなほど近い距離の魚と一緒に泳げたことは一生の思い出です。また、マイイアム現代美術館に行き、首が痛くなるほど見上げなければならない巨大な絵画は言葉では言い表せない壮大さと素晴らしさがありました。とても感動しました。

私は、今回のタイの留学で最も感動したことがあります。それは、人の温かさです。タイの人は、関わる人全てが良い人でした。パディの人は毎日遠い距離を30分かけて歩き、私のディーホステルまで来てくれたり、2組のホストファミリーはどちらの組もすごく良く振る舞ってくれたりしました。また、言葉が通じないドイツ人の子供もたちが、私の髪を編み込みに入れてくれたり、マヒドン大学の先生が、飲み物と食事を振る舞ってくれたり、ここでは多すぎて書ききれないほどの親切な人々と関わりました。

私がタイで1か月不安なく過ごすことができたのもタイの人々のおかげです。私もこれからの人生を、タイの人のように人に親切に接して生きていこうと思いました。



## タイ・チェンマイ短期留学国際交流体験記

教育学部 2年生 佐長直心

僕は、今回2月中旬から3月下旬に約5週間のチェンマイ短期留学プログラムに参加しました。初めての海外であったという事もあり、最初は不安と期待が入り混じった気持ちで出発しましたが、結果的にはこの留学が僕にとってかけがえのない経験になったとともに、心身共に成長できた5週間であったと思っています。

私が特に心に残っている経験は、2回のホームステイです。どちらのホームステイ先も英語があまり伝わらず、コミュニケーションにとっても苦労しました。しかし、ホストファミリーの皆さんが僕をとっても暖かく迎えてくれたので、僕もとても楽しく過ごすことができ、言葉の壁を越えた心の通じ合いができたような感覚になりました。特に、ドイ・インタノンでのホームステイでは、自分たちの普段の暮らしとは大きく違い、戸惑いもありましたが、子どもたちと触れ合うことで、言語は違っているのに不思議と会話ができているように感じる事ができました。

また、留学中はバディがついてくれて、チェンマイ大学の日本語学科の学生さんたちと過ごすことが多くありました。みんな日本語が上手で、自分の国の言葉を一生懸命勉強してくれている姿にとっても感動しました。学校の授業やテストなどで忙しい中でも、一緒にご飯を食べてくれたり、観光地に連れて行ってくれたりとたくさんのお世話をしてくれたことは感謝しかありません。留学中多くのことを経験しましたが、彼らとの関わりというのも非常に心に残り、忘れられない思い出となりました。

チェンマイの短期留学を通して最も成長したと思えることは、自分から積極的に学ぼうという姿勢が身についたことです。ホステルでは世界中から来た外国人と過ごすことがあり、以前の僕なら話しかける勇気も出ず、何もしないまま過ごしていた状況だったと思いますが、「せっかくの機会だから自分から話しかけてみよう」と勇気を出しました。その結果思いがけず話が弾み、相手の国のことや家族のことなどたくさんのお話をすることができました。上手とは言えない英語でしたが、相手もそれを理解したうえで話してくれて、間違いを恐れず、積極的にかかわる事の大切さを学びました。今回のチェンマイ留学で感じたこと、学んだことは数えきれないほどありますが、この経験を今後の学びや人生にしっかりと生かしていきたいと思っています。



## 米国・コロラド州立大学短期留学体験記

教育学部 4年生 清広 和

私は2月21日から3月31日の約5週間の間、春休みを利用して、アメリカのコロラド州立大学の留学プログラム「PLACE」に参加しました。この留学が私にとって初めての海外ということもあり、アメリカでの生活は驚きや戸惑いの連続でした。しかし、同時にこの留学で得たものは数多くあり、どれもが他ではできない貴重な経験であったとも感じています。ここからは、そのことについて、私がこの留学で掲げていた目標を交えながら簡単にご紹介したいと思います。

一つ目の目標は、英語でのコミュニケーションが取れるようになることです。当然ですがアメリカでは授業はもちろん、会話のすべてが英語で行われます。私があまり英語を得意としていなかったこともあり、アメリカに着いたばかりのころは、ネイティブの発音や、会話のスピードなどから何を言っているのかを理解しようとするので手一杯でした。しかし、現地の友人に助けってもらったり、毎日英語で会話したりしていると、少しずつ耳が慣れていくのを感じました。例えば、昼食の際にスムーズに店員さんに注文と会話ができただけには自分の英語力の成長を実感できました。

二つ目の目標は、アメリカで友達を作ることです。コロラド州立大学では日本語のクラスがあり、その学生とよく交流していました。私が下手なりに英語で話そうとすれば親身に耳を傾けてくれ、アドバイスをもらったりもしました。また、一緒に昼食を食べたり、休日は車に乗せてもらって遠くまで遊びに行ったり、射撃に連れて行って貰ったりもしました。留学の間の楽しい時間は彼らがいってくれたからこそのものであったと感じています。

今回のアメリカ留学を通して、英語の能力の向上と共に、自分の視野を広げることに繋がりました。正直以前まで私は外国にそれほど関心がなかったのですが、留学を通して他国の文化にも興味を持ちました。また、留学で出来た友達とは今もSNSを通じて交流を続けています。これらのことは、情報だけで見るのではなく、実際に経験したからこそ得られたものだと感じています。



## 台湾・国立嘉義大学への短期訪問を通して

教育学部 4年生 廣野真優

私は、3月に台湾の国立嘉義大学への短期訪問に参加しました。海外に行ったこともなく、英語も得意ではありませんが、「台湾に行ってみたい」「台湾の学生と交流したい」「海外の幼児教育に触れてみたい」という思いが不安を上回り、参加を決めました。今回の短期訪問では、さまざまな体験を通して、とても充実した時間を過ごすことができました。

今年は、教育サービスセンターの一角にある幼稚園、美術館の中にある幼稚園、国立嘉義大学付属幼稚園の3つの幼稚園を訪問しました。どの施設も環境が整っており、興味深かったです。台湾では、「〇〇区」というコーナーを4つ以上もつことが勧められており、どの施設も面白そうなコーナーがたくさんありました。聴區(音楽を聴くコーナー)や語文區(手紙を書くコーナー)、数学區、積み木區など、一つ一つのコーナーが充実しており、子どもたちもじっくりと遊んでいるように感じました。どこまで環境を整えるべきか、難しいところもありますが、子どもの遊びが充実するための方法をたくさん学ぶことができ、視野が広がった気がしています。

今回の訪問では、嘉義大学の教授や学生の方々との多くの交流をすることができました。授業などでお忙しい中、さまざまな場所に案内していただき、一緒に貴重な体験をさせていただきました。ナイトマーケット、愛玉作り(台湾の伝統的なデザート)、エビ釣りなど、楽しい活動が盛りだくさんでした。私たちのためにたくさんの時間を割いてくださり、素敵な思い出がたくさんできました。嘉義大学の皆さんが温かく迎えてくださったおかげで、今回の訪問はとても充実したものとなりました。この出会いに心から感謝し、今後も連絡を取り合ったり、またいつか台湾に会いに行ったりしたいと思います。



## 【学生の活動】

### ◇「第18回 わくわくコンサート」

テーマ：旅する芸術家たち—ショパンをめぐって—

2025（令和7）年1月26日（日）、サンポートホール高松大ホール

第18回 わくわくコンサート実行委員会  
副実行委員長 福田雅英

#### ◇わくわくコンサートとは

「わくわくコンサート」は、子どもたちや保護者の皆さまからの「私たちが音楽ホールでコンサートを聴いてみたい」という声をきっかけに開かれた、さまざまな事情で気軽に演奏会に足を運ぶ機会の少ない方々にも楽しんでいただける音楽イベントです。コンサートの開催は、2007（平成19）年度にはじまり、今年で18回目を迎えました。主に本学教育学部の学生と教職員で構成された実行委員会が中心となって活動を進め、ボランティアや関係者らによるご協力、そして幸楠会の皆さまをはじめとする多くの方々のご支援を賜り、年に一度高松市で開催される音楽イベントとして定着しました。今年度も多くの皆さまにご来場いただき、コンサートホールは満席になりました。

#### ◇第18回 わくわくコンサートについて

今年のわくわくコンサートは、ようやく年度当初より Covid19 の制限を受けない状態で準備を進めることができました。活動の中心を担う実行委員会のメンバーを刷新し、できる限りの準備に力を入れました。改修工事を終えたサンポートホール高松大ホールを再び会場とし、無事に「わくわくコンサート」を開催することができました。

前年度に引き続き、ホール内では、「コンサートⅠ」・「コンサートⅡ」の二部構成でコンサートを開きました。年齢制限なしの「コンサートⅠ」では、モーツァルト《バイオリン協奏曲第3番「シュトラスブルク」》やメンデルスゾーン《交響曲第4番「イタリア」》、グリーグ《ペール・ギュント第1組曲・第2組曲》（『ペールの大冒険』のお話と絵、ナレーションに改編）を演奏しました。5歳以上が対象の「コンサートⅡ」では、高松市出身で新進気鋭のピアニスト西本裕矢さんを迎えて、ショパン《ピアノ協奏曲第1番》を演奏し、来場者の皆さまの日曜の午後のひと時を音楽で満たしました。「旅する芸術家たち—ショパンをめぐって—」をテーマに、ショパンを中心に据えた〔過去〕・〔ショパンの時代〕・〔未来〕のそれぞれの時代の音楽を巡りながら、ショパンの生きた地や時代の広がり、人や未来とのつながりを感じていただけたと思います。

また、ロビーでは、楽器体験や箏演奏・体験、電車展示、ロビー託児、絵画・原画展示といった多くのイベントを実施しました。コンサート終了後には、ホールステージ上で「大ホールでピアノを弾こう！」と「指揮者なりきり撮影会」を実施しました。それぞれのイベントで、多くの子どもたちの笑顔や保護者の皆さまからの感謝の言葉に触れ、イベントを実施する意義を強く実感することができました。

#### ◇わくわくコンサートと私

私は、前年度ではイベントの一つである電車展示に携わる学生ボランティアとして、4年生となった今年度は実行委員会の副代表として、わくわくコンサートに参画させていただきました。特に今年は、来場者に配付する一部プログラムの作成やロビー運営の責任者を担当しました。副実行委員長というポストに重責を感じ、当日まで不安もありましたが、開演前から多くの来場者の皆さまに足を運んでいただき、小さな子どもたちを含め多くの方々の笑顔に触れ、わくわくコンサートに参画することができた喜びを感じました。

このように無事に第18回わくわくコンサートを開催することができたのは、長きにわたって協議を重ね、ともに準備に邁進してきた本部・実行委員会の仲間の存在があってのことです。かけがえない経験をさせていただいたこと、この場を借りて、感謝申し上げます。

最後になりますが、第18回わくわくコンサートの開催にあたって、多くのご協力をいただきました青山夕夏先生をはじめとする教職員の方々、学生ボランティア、関係者の皆さま、そして多くのご支援を賜りました幸楠会の皆さまに、厚く御礼申し上げます。

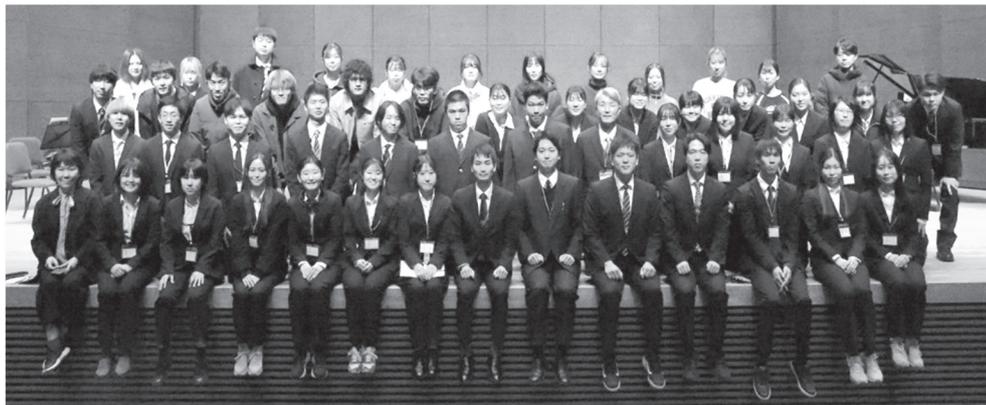
## ◇ コンサートプログラムのご紹介（ホール）

### 【コンサートⅠ】

1. W. A. モーツァルト：バイオリン協奏曲 第3番 “シュトラスブルク” K.216 より  
第1楽章 アレグロ
2. F. メンデルスゾーン：交響曲 第4番 “イタリア” Op.90  
第1楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ
3. E. グリーク：パール・ギュント 第1組曲・第2組曲より  
『パールの大冒険－第18回わくわくコンサートバージョン－』

### 【コンサートⅡ】

4. F. ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 Op.11  
第1楽章 アレグロ・マエストーソ  
第2楽章 ロマンツェーラルゲット  
第3楽章 ロンドーヴィヴァーチェ



## 【学生の活動】

2025年度教職自主サークル  
活動代表者（世話人） 白川結月

### ◇「教職自主サークル」

#### 教職自主サークルについて

教職自主サークルは、学生が主体となって教員採用試験対策を行う中で、教職についての理解を深めるサークルです。毎年4月から二次試験のある8月まで、毎週月曜日の6コマに集団討論や集団活動、模擬授業、個人面接などの演習をはじめ、各自治体の試験に関する情報・意見交換を行っています。



【集団討論演習の様子】

また、先生方から討論や模擬授業のポイント等についてご指導いただき、それを基に学生同士で意見交流をしながら日々切磋琢磨しています。今年度は、植田和也先生のご講話からスタートし、教員採用試験を一丸となって乗り越えていこうという士気を高めました。毎年7月末頃には、二次試験対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を行っています。11月には、

教職2年目の卒業生から教職の魅力や難しさなど教員生活の実情を聞く「卒業生と在校生との交流会」もあり、学年を問わず、多くの学生が参加しています。

運営を行っているのは、教育学部生5名、医学部生1名で構成される計6名の世話人です。世話人を中心として、交流人事教員や教職大学院の先生と日程や活動調整を行い、一次試験と二次試験に向けた対策を行っています。今年度は、3・4年生を中心に150名以上の参加があり、教育学部生だけでなく、養護教諭を目指す医学部看護学科の学生も所属しています。学生の志望する自治体は香川県、岡山県が主ではありますが、他の自治体も含め一丸となって取り組んでいます。

また、多くの教育学部の先生方にもお力添えやご指導をいただきながら教員採用試験だけでなく、4月からの教員生活に向けて力を付けています。私自身、教職自主サークルの活動から教職について理解を深めるだけでなく、同年代の学生や先生方と共に、自主サークルを運営していく経験は将来現場に出たときに活かすことができる協働性を養ってくれていると感じています。



【先輩教員からの模擬授業指導】

そして教員採用試験を終えた後期には、次年度に受験を控える後輩を支援する側に回り、願書指導や一次試験、二次試験対策についての話をする機会を設けています。このサークルに入る多くの人が、専門的な知識を身に付け、協力して一つの目標に向かって取り組むことのすばらしさを学ぶことができるように一致団結して励んでいきます。

最後になりましたが、今年度の教職自主サークルの活動に際しましても、教職大学院教員2名、交流人事教員3名の先生方をはじめとする多くの方々にご支援、ご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

## 2025年度 教職自主サークル 【前期】

1. 日時 毎週月曜日 18:00～19:30
2. 場所 415講義室 他（人数や内容などによって変更有）
3. 活動 模擬授業・集団討論・集団活動・個人面接などの教員採用試験対策
4. 支援者 川東芳文先生 中名紀子先生 大和田俊先生 他
5. 日程（予定）

月日	回	内 容
4 / 14	第1回	オリエンテーション（模擬授業の行い方等）、アンケート調査 自主サークルの在り方（川東芳文先生）
4 / 21	第2回	植田和也先生による講話「教育の今日的課題と教採に向けて」
4 / 28	第3回	集団討論・集団活動練習①
5 / 12	第4回	集団討論・集団活動練習②
5 / 19	第5回	模擬授業練習①
5 / 26	第6回	模擬授業練習②
6 / 2	第7回	集団討論・集団活動練習③
6 / 9	第8回	自治体別交流会
6 / 16	第9回	模擬授業練習③
6 / 23	第10回	直前演習①（集団討論，集団活動，集団・個人面接 等） ※試験当日の服装及び頭髪で参加しましょう。
6 / 30	第11回	直前演習②（集団討論，集団活動，集団・個人面接 等） ※試験当日の服装及び頭髪で参加しましょう。
7 / 7	第12回	集団討論・集団活動練習④，模擬授業練習④ ※自治体により，一次試験対策か二次試験対策と異なります。
7 / 14	第13回	集団討論・集団活動練習⑤，模擬授業練習⑤ ※自治体により，一次試験対策か二次試験対策と異なります。
8 / 2（土）	第14回	先輩教員からの模擬授業指導 ※ぜひ参加して，教採への意欲・力をアップしましょう。
夏季休業中		各自・各グループで二次試験対策

## 2025 年度 教職自主サークル 【後期】

1. 日時 月曜日 18:00～19:30 または 金曜日 1コマ
2. 場所 621 講義室 他（人数・内容などによって変更有）
3. 支援者 川東芳文先生 中名紀子先生 大和田俊先生 他
4. 日程（予定）

月日・コマ	教室	内 容
11 / 17 (月) 6コマ	415	教育の最新事情「先輩教員に学ぶ会」 ※講師：2年目の先輩教員
12 / 12 (金) 1コマ	621 他	願書の書き方「願書作成チェック」 ※4年生の積極的な参加をお願いします。
12 / 19 (金) 1コマ	621 他	集団討議等対策「4年生に学ぶ」 ※4年生の積極的な参加をお願いします。
1 / 23 (金) 1コマ	621 他	模擬授業対策「4年生に学ぶ」 ※4年生の積極的な参加をお願いします。

## 【学務事務からの情報】

### ◇インターネットを利用した情報提供システム（学務係）

学務係では、掲示板での周知以外に、学務に関わる各種情報をインターネット経由でお知らせしています。休講、補講など授業に関することは教務システム（カダサポ）で、授業の資料提示やレポート提出などは Moodle（ムードル）を利用して行っています。

#### ●「学務係からの連絡」メールの一斉配信

学務係からの連絡は、前述の教務システムの一斉配信機能を用い、大学から学生一人ずつに付与されている香川大学メールに転送されています。また、学生自身で携帯・スマートフォン等のメールアドレスにも転送するよう設定できます。

#### ●「学務係から」のWebページ

教育学部ホームページの「在学生の方へ」にある、「学務係から」のWebページには以下の情報が掲載されています。

- ・年間行事予定
- ・年間時間割
- ・定期試験時間割
- ・集中講義の日程連絡等の授業に関するお知らせ
- ・学校図書館司書教諭講習の案内
- ・卒業後・修了後の証明書交付申請方法の紹介



### ◇何でも窓口

教育学部・教育学研究科では、「学生相談室」を開設し、修学、生活、就職・進学などに関する相談にあたっています。また、平成17年度から、きめ細かな学生支援ができるように、メールによる「何でも窓口」を開設しました。

「何でも窓口」は、学生が、修学・生活上のこと、就職・進学のこと、疑問なこと、困ったり悩んだりしていることなど、学生生活全般にわたって、どんなことでもメールで尋ねたり、相談したりできる窓口です。

メールアドレス：[l-gakumu-c@kagawa-u.ac.jp](mailto:l-gakumu-c@kagawa-u.ac.jp)

※質問や相談の内容については、秘密を厳守します。必要に応じて、教職員との面談も行います。

## ◇学生表彰（学業）

学生表彰とは、学業成績及び人物共に特に優れていると認められた学業優秀者を表彰するもので、学部学生2年生以上各学年2名及び大学院学生2年生1名を推薦することができます。

令和7年度は、2年生は鈴木結羽さん・坪井 優さん、3年生は松岡心花さん・山下ひとみさん、4年生は玄馬久那愛さん・村上愛奈さん、大学院生からは梶野未結さんが選出されました。

学業優秀者には、学長から表彰状と記念品が授与されました。また、本学校友会からも記念品が贈られました。



## ◇学生表彰（卒業・修了時）

平成20年度の卒業式・修了式より、当該年度の各学部卒業生と各大学院修了生の中からそれぞれ1名の特に優秀な成績を修め、他の学生の模範となると認められる者に対し、学長表彰が行われています。

学部の各コース・領域、大学院の専攻から候補者として推薦された学生を面接し、表彰学生を決定します。

令和6年度は、学部学生からは古市純平さん、大学院学生からは橘 泉朱さんが選出され、記念品と賞状楯が贈られました。

## 【進路選択と就職・進学支援活動】

### ◇働くこと・就職後を意識したキャリア支援

「キャリア」とは、狭い意味で言えば「職業」のことですが、広い意味で言えば「人生」や「生き方」のことを意味します。また「就職」は人生における通過点のひとつであって、ゴールではありません。就職も含めて、自分が今後どう生きていきたいか、そのために何をしたいか、広い視点で総合的に考えることが、自分自身が本当に満足できるキャリア形成につながります。香川大学では入学時からキャリア教育を行い、将来を見据えながら、自分がどのような人生を送り、どのようなリソースを生かしていきたいかを一緒に考えていきます。キャリアはすぐに答えが出る問題ではありません。そのため1年次から時間をかけて、香川大学では様々な視点から学生のキャリア形成を支援しています。

1年次のキャリア教育は、全学共通科目に「人生とキャリア」（ライフデザイン）という必修科目をもうけています。自分を知り、仕事を知り、地域や世界を知ることを通して、自分らしいキャリアとは何かを考え、「市民としての責任感と倫理観」を育みます。

3年次になると、「就職」に向け様々なガイダンスやセミナーが実施されます。学生の進路に応じた情報を収集・分析するとともに、それぞれに応じた総合的な指導・支援体制をとっています。特に全学のキャリア支援センターでは、学生のキャリア形成支援及び就職支援を推進するため、就職相談コーナーや情報・資料コーナー、パソコンコーナーなどを設置し、専門スタッフによる就職相談・面談や、履歴書・エントリーシートの添削、面接指導、ガイダンス等を含めたインターンシップなどの支援を行っています。



キャリア支援センター

### ◇教育学部の取り組み

教育学部では、“自らの課題を探りキャリアを育む”ための4年一貫のカリキュラム体制を整え、キャリア教育・支援の充実を図っています。

1年次には、「教職概論」を履修して、附属学校園の実地見学などを含む授業を通して教職の意義及び教員の役割や職務内容を学びます。2年次以降には実践的教育科目も用意され、それぞれの専攻のコースや領域の専門科目について深く探究しながら将来の進路を決定し、3年次から4年次にかけて、就職・進学のための活動が行われます。

正課外活動として、教育学部には地域の児童や生徒の様々な夢や想いを受け止めるプロジェクトが多数あります。またボランティア活動や留学プログラムなども用意されており、学生はこれらの多彩な研究や活動を通して、自らの問いや答えを見つけ、実践的な取り組みを学びます。

3年次になると、学生支援専門委員会（就職関係）が中心となり各種のガイダンス、セミナー、説明会などを開催し、就職・進学活動への支援並びに相談活動を行っています。とくに教育学部では教職志望の学生が多いので、教員採用試験受験者向けのセミナー、説明会の開催に加えて、「教職自主サークル」などの教職志望の学生たちの自主的な取り組みへの支援、「教職研究Ⅰ（教育法規入門）」、「授業実践論（教職の総合的研究）」、「教職

研究Ⅱ」などの教員採用試験受験学生のHR（ホームルーム）的授業の開設などの教職支援の取り組みに力を入れています。また教員採用試験の早期化に対応できるように2年次から各授業、セミナーや自主サークルにも参加できるように対策をしています。

教育学部附属教職支援開発センターや、民間企業への「就活」支援に強みを発揮する全学のキャリア支援センターと連携しながら、教育学部生の就職・進学支援を行っています。

◇教育学部における就職・進学のための年間支援活動（令和6年度～令和7年度）

区 分	開催月日	行 事 名	就職分野等	備 考	
セミナー・ガイダンス等	10月	29日 火	2年生向け就職スタートダッシュガイダンス	全員	教採に向けてのスケジュール確認、4年生による就職活動体験報告とアドバイス、教職自主サークルの紹介
		30日 水	3年生向け就職ガイダンス	全員	教育学部就職状況説明会等、全学の就職支援について教職自主サークルの紹介、4年生による就職活動体験報告
	11月	18日 月	卒業生・在校生交流会（第1回就職セミナー）	教員	本学卒業の現職若手教員と教職をめざす在学生との交流会
		22～	第2回就職セミナー	教員	教員採用試験セミナー（時事通信社）オンデマンド
	11月29日～1月24日	就職セミナー（全6回）	教員	教員採用試験筆記試験対策	
	随時	願書指導	教員	学生支援専門委員による教員採用試験願書の添削指導	
	4月24日 木	2025年度第1回就職セミナー	教員	教員採用1次試験対策 学生支援専門委員・交流教員による集団討論、面接①	
	5月22日 木	2025年度第2回就職セミナー	教員	教員採用1次試験対策 学生支援専門委員・交流教員による集団討論、面接②	
	5月26日～	教員採用試験オンデマンドセミナー	教員	教員採用1次試験直前対策セミナー（時事通信社）	
	6月5日 木	2025年度第3回就職セミナー	教員	教員採用1次試験対策 学生支援専門委員・交流教員による集団討論、面接③	
7月24日 木	2025年度第4回就職セミナー	教員	教員採用2次試験対策 学生支援専門委員・交流教員によるグループワーク、面接①		
7月30日 水	教員採用 英語対策（面接）	教員	英語領域教員による英語での面接指導		
教員採用説明会等	11月	25日 月	岡山市教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
		27日 水	岡山県教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
	12月	4日 水	兵庫県教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が zoom を用いて教員志望の学生に説明
		11日 水	神戸市教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が zoom を用いて教員志望の学生に説明
	18日 火	広島県・広島市教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明	
	1月29日 水	香川県教員採用選考説明会①	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明	
	3月7日 金	高知県教員採用選考説明会	教員	教育委員会職員が zoom を用いて教員志望の学生に説明	
	4月	10日 木	岡山市教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
		11日 金	神戸市教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が zoom を用いて教員志望の学生に説明
		14日 月	兵庫県教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が zoom を用いて教員志望の学生に説明
		18日 金	広島県・広島市教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
		21日 月	愛媛県教員採用選考説明会	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
	23日 水	岡山県教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明	
	5月	8日 木	徳島県教員採用選考説明会	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明
12日 月		香川県教員採用選考説明会②	教員	教育委員会職員が来学し教員志望の学生に説明	
インターンシップ	5月	メール掲示	インターンシップ周知	3年生	インターンシップ概要・受入機関と履修手続の説明（受入先機関・8月9月の1週間～2週間及び事前指導）
	6月23日 水		インターンシップ研修会（マナー講座）	履修者	インターンシップ事前指導
教員採用模擬試験	11/22～12/3		第1回教員採用模擬試験	教員	プレ模試 時事通信出版局（教養・専門・論作文）
	12/20～12/31		第2回教員採用模擬試験	教員	時事通信出版局（教養・専門・論作文）
	1/24～2/4		第3回教員採用模擬試験	教員	時事通信出版局（教養・専門・論作文）
	2/21～3/4		第4回教員採用模擬試験	教員	時事通信出版局（教養・専門・論作文）
	3/24～5/11		第5回教員採用模擬試験	教員	東京アカデミー（自治体別模擬試験）
	4/6～4/20		第6回教員採用模擬試験	教員	協同出版（教養・専門・論作文）
幼保模擬試験	2/20～2/26		第1回幼保模試	幼稚園・保育士	公務員試験セミナー（教養・専門・論作文）
	4/14～4/23		第2回幼保模試	幼稚園・保育士	公務員試験セミナー（教養・専門・論作文）
	6/2～6/13		第3回幼保模試	幼稚園・保育士	公務員試験セミナー（教養・専門・論作文）
	7/11～7/17		第4回幼保模試	幼稚園・保育士	実務出版社（教養・専門）
公務員採用模擬試験	～11/3		第1回公務員試験全国模試	公務員	東京アカデミー全国型（教養・専門）
	～2/23		第2回公務員試験全国模試	公務員	東京アカデミー全国型（教養・専門）
	～3/16 ～5/18		第3回公務員試験全国模試	公務員	東京アカデミー地方上級型（教養・専門）
大学院進学	時期未定	大学院教育学研究科説明会	—		研究科の概要等を HP の動画で説明

◇キャリア支援センターによる就職のための年間支援活動（令和7年度予定）

開催月日		行 事 名	対 象	
4月	21・23・24	第1回前期就職スタートガイダンス	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）	
5月	1～2	メタバースを利用した「令和7年度体験型インターンシップ登録企業説明会」	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）	
	8日	水	インターンシップ入門ガイダンス	◇全学年対象（対面+オンライン（ハイブリッド開催））
	7・8・12	自己分析&インターンシップES対策講座	★主に学部3年生・院1年生（対面）	
	19・21・22	職務適正テスト解説会&自己分析講座	★主に学部3年生・院1年生（対面）	
	28日	水	ニトリの自己分析講座	●主に学部1・2年生（オンライン）
6月	18日	水	第1回SPI3理解+WEBテスト受検会	★主に学部3年生・院1年生（対面）
	23・25・26	インターンシップのための参加準備・マナー講座	★主に学部3年生・院1年生（対面）	
	30, 7/2	集団討論練習会（公務員2次試験対策）	★主に学部4年生・院2年生（対面）	
7月	23日	水	夏休みの過ごし方講座	●主に学部1・2年生（対面）
8月	21・22	県内企業見学ツアー	◇全学年対象（オンライン）	
9月	10・24	第2回就職活動リスタート相談会	◆主に学部4年生・院2年生（対面）	
	30日	火	うどん県の自治体で働くこう大懇談会	◇全学年対象（対面）
	未定	大学生就職ガイダンス	●主に学部1・2年生（対面）	
10月	未定	オンデマンド配信講座（自分に合う企業の探し方他）	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）	
	未定	企業セミナーでおさえるポイント・効果的な逆質問	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）	
	未定	面接・GD対策講座	★主に学部3年生・院1年生（対面）	
11月	未定	香川の企業紹介セミナー	◇全学年対象（対面）	
	未定	第2回SPI理解+WEBテスト受検会	★主に学部3年生・院1年生（対面）	
12月	未定	就活支援ブック使い方講座	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）	
	未定	模擬グループディスカッション講座	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）	
	未定	就活実力WEB模試受検会	●主に学部2年生（対面）	
	未定	職務適性テスト&解説会&自己分析	●主に学部2年生（対面）	
1月	未定	公務員志望者向け直前準備講座	★主に学部3年生・院1年生（オンライン）	
	未定	公務員志望者向け準備講座	●主に学部2年生（対面）	
	未定	エントリーシートグループ添削指導会	★主に学部3年生・院1年生（対面）	
2月	未定	第0回就活スタート準備講座	●主に学部2年生（オンライン）	
	未定	国家公務員・国立大学法人等職員説明会	◇全学年対象（対面+オンライン（ハイブリッド開催））	
未定	未定	学内合同企業説明会	★主に学部3年生・院1年生	
	未定	学内個別企業説明会	★主に学部3年生・院1年生	

※内容は変更となる場合があります。

◇令和7年3月卒業（修了）者の就職状況等

令和7年5月1日現在

区分		学部等		教育学部		教育学研究科		
						研究科生	内現職	
卒業生数				170		23	10	
進学者数				13 8%		0	0	
就職者数				152 89%		23	10	
教育	小学校			51		14	8	
	中学校			24		4	2	
	高等学校			6		3		
	幼稚園			4				
	特別支援			8		1		
	大学							
	その他教育							
	小計			93 61%		22	10	
産業別就職者数	農・林・水産業							
	建設業				2			
	製造業				6			
	電気・ガス・熱供給・水道業				2			
	情報通信業				7			
	運輸業、郵便業				1			
	卸売・小売業				2			
	金融・保険業				8			
	不動産業、物品賃貸業				1			
	学術研究、専門・技術サービス業				1			
	宿泊業、飲食サービス業				4			
	生活関連サービス業、娯楽業				4			
	医療、福祉				5			
	複合サービス事業							
	サービス業				1			
	小計				44 29%		0	0
	国家公務				7			
	地方公務				8			
	その他							

※主な進路先

【進 学】香川大学大学院（教職大学院，創発科学研究科）岡山大学大学院 大阪教育大学大学院 他

【教員関係】香川県教員 岡山県教員 徳島県教員 兵庫県教員 広島県教員 愛媛県教員 福岡県教員 東京都教員 他

【医療・福祉】藍住町保育士 医療財団法人五色会（株）タスク・フォースミテラ都市型保育園ポポラー 他

【公務関係】国税局 香川労働局 岡山労働局 四国運輸局 高松高等裁判所 岡山県庁 岡山市役所 丸亀市役所 他

【企 業】（株）百十四銀行（株）トマト銀行 四国旅客鉄道（株） 四国電力（株） 中国電力（株）

日本生命保険相互会社 三菱食品（株） ナカバヤシ（株）（株）大塚商会（株）SUBARU 他

## ◇令和6年度卒業式及び卒業生を送る会について

令和7年3月24日、令和6年度卒業式が香川大学講堂において挙行政され、教育学部では、170名が卒業しました。

卒業式後は、415講義室において学位記を配布しました。また、後援会（幸楠会）が同窓会（松楠会）と共催して「卒業生を送る会」を大学会館1階生協食堂において開催しました。最初に平学部長より卒業生に対して、これからの活躍に期待するとの挨拶があり、次いで藤本泰雄同窓会会長の祝辞の後、卒業生を代表して川西陽奈子さんが謝辞を述べました。上田夏生学長にもお越しいただき、会場は和やかな雰囲気の中で、在学中の思い出話などに花を咲かせました。



## ◇令和7年度入学式

令和7年4月2日、あなぶきアリーナ香川メインホールにおいて入学式が挙行政され、教育学部には新入学生として169名、編入学生は2名、総計171名が入学しました。今年度から新入生宣誓を行うこととなり、新入生を代表して教育学部の久保田 滯さんが決意を述べました。

令和7年4月3日、415講義室にて新入生学部ガイダンスを行いました。まず平学部長からの挨拶、次いで役職者・クラス担任等の紹介、在学生代表 白川結月さんからの祝辞の後、6クラスに分かれて大学からの通知メール受信方法の設定等、大学生活に必要な説明を行いました。



## 【教育学部後援会（幸楠会）総会報告】

### ◇総会の開催

午前中の役員会に引き続き、午後1時から総会が開催され、40名ほどの会員の方々が出席されました。協議題について審議・承認ののち、学生支援専門委員会委員長から就職状況の説明がありました。また、後援会の活動を継続的に行うための方策などについて、意見交換がなされました。

日 時 令和7年5月31日（土）13時～

会 場 教育学部 415 講義室（1階）

- 協議題
1. 役員の改選について
  2. 令和6年度事業報告及び決算について
  3. 監査報告について
  4. 会報第22号の発行について
  5. 令和7年度事業計画及び予算について
  6. その他（役員会・総会の開催時期について）

- その他事項
1. 就職状況の説明
  2. 保護者からのご質問等

### ◇教員との懇談会

懇談時間 総会終了後

場 所 各教員研究室等

## ◇令和6年度 教育学部後援会（幸楠会）事業報告

### 〈学生指導支援事業〉

学校教育教員養成課程学生教材費援助，水泳実習補助，新入生学部ガイダンス，コンピューターガイダンス，教育実習・介護体験支援，その他学生指導の支援

### 〈就職活動支援事業〉

教員採用模擬試験・公務員採用模擬試験受験者支援，就職ガイダンス・セミナー等開催，特別教育実習補助，インターンシップ活動補助，就職関係図書の購入，その他就職関係活動の支援

### 〈学生行事支援事業〉

大学祭の支援

### 〈国際交流支援事業〉

#### ・大学間協定校

コロラド州立大学（アメリカ），チェンマイ大学（タイ），国立嘉義大学（台湾），ダルサラーム大学（ブルネイ）

#### ・部局間協定校

クライストチャーチ工科大学（ニュージーランド），江西師範大学（中国），フライブルク教育大学（ドイツ），台北日本人学校（台湾）

教育学部と関係がある海外の協定校との交流，学生の留学支援，留学生交歓会の開催，国際交流活動の支援等

### 〈地域交流支援事業〉

受験生への大学説明会及びオープンキャンパス，未来からの留学生，わくわくコンサート開催支援，交流行専用テント購入，その他地域との交流活動の支援

### 〈図書購入支援事業〉

教育実習生用教科書・指導書購入支援

### 〈教育環境整備支援事業〉

薬用液体泡ハンドソープ，照明器具のLED化

### 〈卒業記念事業〉

学位記ホルダーの購入，卒業生を送る会の開催

### 〈会報発行事業〉

会報第21号の発行

### 〈その他事業〉

入試補助，学生保護者弔意，その他諸行事の補助

◇令和6年度 教育学部後援会（幸楠会）決算書

収入の部

(単位:円)

費 目	予算額 A	決算額 B	差額 B-A	決 算 額 内 訳
前年度繰越金	1,393,376	1,393,376	0	
入 会 金	1,740,000	1,380,000	▲ 360,000	新入生 122 名 編入生 5 名 過年度入学生 3 名
会 費	3,430,000	2,695,000	▲ 735,000	新入生 122 名 編入生 5 名 転学部生 3 名 過年度入学生 8 名
預 金 利 子	624	978	354	
そ の 他	0	0	0	
合 計	6,564,000	5,469,354	▲ 1,094,646	

支出の部

(単位:円)

費 目	予算額 A	決算額 B	差額 A-B	決 算 額 内 訳
学生指導援助費	1,200,000	945,845	254,155	学校教育教員養成課程学生教材費援助 570 千円, 新入生ガイダンス 120 千円, 新入生コンピュータガイ ダンス 8 千円, 水泳実習補助 50 千円, 教育実 習・介護体験支援等 78 千円, 定年退職教員記念 品 120 千円
就職活動援助費	900,000	455,521	444,479	教員採用・公務員採用模擬試験支援 238 千円, 就職ガイダンス・セミナー等開催 95 千円, 特別教 育実習補助 95 千円, インターンシップ補助 25 千円, 郵送料 2 千円
学生行事援助費	100,000	100,000	0	大学祭補助 100 千円
国際交流援助費	500,000	237,803	262,197	協定大学との交流 224 千円, 留学生交歓会補助 費 13 千円
地域交流援助費	500,000	507,883	▲ 7,883	交流行事用テント 103 千円, オープンキャンパス 支援 156 千円, 未来からの留学生事業支援 33 千 円, わくわくコンサート開催支援 200 千円, 高校 訪問に係る支援等 15 千円
図 書 費	1,200,000	1,200,000	0	教育実習生用教科書・指導書購入支援 1,200 千円
教育環境整備費	500,000	480,546	19,454	薬用液体泡ハンドソープ 41 千円 講義室照明 LED 化 440 千円
卒業記念事業費	500,000	424,700	75,300	学位記ホルダー購入 210 千円, 卒業生を送る会(記 念品・花) 214 千円
会 報 発 行 費	450,000	399,905	50,095	会報印刷 400 千円
会 議 費	80,000	50,384	29,616	役員会・総会開催 50 千円
事 務 費	400,000	314,278	85,722	役員会案内・総会資料及び会報等発送 196 千円, 後援会事務費 91 千円, 入会金・会費振込手数料 27 千円
雑 費	100,000	46,245	53,755	弔慰金 5 千円, 入試業務補助 31 千円, 式典用花 代等 10 千円
新規積立金 (定期預金)	0	0	0	
予 備 費	134,000	0	134,000	
小 計	6,564,000	5,163,110	1,400,890	
次年度繰越金		306,244	▲ 306,244	
合 計	6,564,000	5,469,354	1,094,646	

留保金(定期預金) (単位:円)

事 項	預金額
令和6年度新規積立金	0
令和6年度末預金額	7,910,000
合 計	7,910,000

## ◇令和7年度 教育学部後援会（幸楠会）事業計画

### 〈学生指導支援事業〉

学校教育教員養成課程学生教材費援助，水泳実習補助，新入生学部ガイダンス，コンピュータガイダンス，教育実習・介護体験支援，その他学生指導の支援

### 〈就職活動支援事業〉

教員採用模擬試験・公務員採用模擬試験受験者支援，就職ガイダンス・セミナー等開催，特別教育実習補助，インターンシップ活動補助，就職関係図書の購入，その他就職関係活動の支援

### 〈学生行事支援事業〉

大学祭の支援

### 〈国際交流支援事業〉

#### ・大学間協定校

コロラド州立大学（アメリカ），チェンマイ大学（タイ），国立嘉義大学（台湾），ダルサラーム大学（ブルネイ）

#### ・部局間協定校

クライストチャーチ工科大学（ニュージーランド），江西師範大学（中国），フライブルク教育大学（ドイツ），台北日本人学校（台湾）など

教育学部と関係がある海外の協定校との交流，学生の留学支援，留学生交歓会の開催，国際交流活動の支援等

### 〈地域交流支援事業〉

受験生への大学説明会及びオープンキャンパス，未来からの留学生，わくわくコンサート開催支援，その他地域との交流活動の支援

### 〈図書購入支援事業〉

教育実習生用教科書・指導書購入支援

### 〈教育環境整備支援事業〉

学生のための構内環境向上を目的とした設備整備支援

### 〈卒業記念事業〉

学位記ホルダーの購入，卒業生を送る会の開催

### 〈会報発行事業〉

会報第22号の発行

### 〈その他事業〉

入試補助，その他諸行事の補助など

◇令和7年度 教育学部後援会（幸楠会）予算書

収入の部

(単位：円)

費目	予算額	予算額内訳
前年度繰越金	306,244	
入会金	1,060,000	新入生104名 編入生1名 過年度入学生1名
会費	2,110,000	新入生104名 編入生1名 過年度入学生1名 (下段に計算式があります。)
預金利子	756	
留保金	1,000,000	定期預金の解約
合計	4,477,000	

支出の部

(単位：円)

費目	予算額	使途内訳
学生指導援助費	950,000	学校教育教員養成課程学生教材費援助, 体育実技指導補助, 水泳実習補助, 新入生ガイダンス, コンピューターガイダンス, 学生研究旅行引率補助, 教育実習・介護体験支援等, ICT対応研修支援, 教職自主サークル活動支援, 定年退職教員記念品
就職活動援助費	460,000	教員採用・公務員採用模擬試験支援, 就職ガイダンス・セミナー等開催, 特別教育実習補助, インターンシップ補助, 就職関係図書購入, 就職委員活動支援
学生行事援助費	100,000	大学祭補助
国際交流援助費	240,000	学生の交流協定校への派遣・語学研修留学支援, 協定大学との交流, 留学生交歓会補助
地域交流援助費	410,000	大学説明会, オープンキャンパス, 「未来からの留学生」などの地域交流活動の助成, わくわくコンサート開催支援
図書費	600,000	教育実習生用教科書・指導書購入支援
教育環境整備費	400,000	学生のための構内環境向上を目的とした設備整備支援
卒業記念事業費	350,000	学位記ホルダー購入, 卒業生を送る会開催費用
会報発行費	200,000	会報第22号の発行(ペーパーレス化)
会議費	42,000	役員会・総会の開催費用
事務費	260,000	役員会の開催案内状, 総会資料及び会報等の通信費, 後援会事務費, 消耗品の購入
雑費	47,000	その他諸雑事の経費
新規積立金(定期預金)	0	
予備費	418,000	各費目の不足時に充当
合計	4,477,000	

留保金残高(定期預金)

(単位：円)

事項	預金額
令和6年度末預金額	7,910,000
令和7年度解約	▲1,000,000
合計	6,910,000

会費予算額内訳

104名 * 20,000	=	2,080,000
1名 * 10,000	=	10,000
1名 * 20,000	=	20,000
合計		2,110,000

## 【香川大学教育学部後援会（幸楠会）会則】

（名称）

第1条 香川大学教育学部後援会は、幸楠会（以下「本会」という。）と称する。

（目的）

第2条 本会は、学部と家庭との連絡を密にするとともに、学部教育事業を後援することを目的とする。

（組織）

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

- （1）正会員 教育学部学生の保護者
- （2）特別会員 教育学部教職員
- （3）賛助会員 本会の事業を賛助する者

（事務所）

第4条 本会の事務所は、香川大学教育学部内に置く。

（事業）

第5条 本会は、次の事業を行う。

- （1）学部と家庭との連絡
- （2）学部教育事業の後援
- （3）その他本会の目的を達するに必要な事業

（役員）

第6条 本会に次の役員を置く。

- （1）会長 1名
- （2）副会長 2名
- （3）監事 2名
- （4）顧問 1名
- （5）理事 正会員から各学年若干名、特別会員から若干名

（役員の仕事）

第7条 会長は、会務を総理し、本会を代表する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 監事は、会計を監査する。

4 顧問は、会長の諮問に応ずる。

5 理事は、会務を処理する。

（役員を選任）

第8条 会長、副会長、監事及び理事（正会員）は、正会員の中から役員会の議決を経て総会において選任する。

2 理事（特別会員）は、特別会員の互選により選任する。

3 顧問は、教育学部長に委嘱する。

（役員の仕事）

第9条 会長、副会長、監事及び理事の仕事は1年とし、再任を妨げない。

（会議）

第10条 本会に総会及び役員会を置く。

2 総会は、毎年1回開催し、役員を選任、事業報告及び決算、事業計画及び予算、その他の重要案件を協議する。

役員会は、随時開催し、総会の議事等を協議する。

（経費）

第11条 本会の経費は、正会員の入会金（10,000円）、会費（学生在学期間中年額5,000円）及び寄付金をもって充てる。

（予算及び決算）

第12条 本会の収支の予算及び決算は、理事が作成し、役員会の議決を経て総会の承認を得るものとする。

（会計年度）

第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（会則の改正）

第14条 本会則の改正は、総会の議決を要する。

附 則

この会則は、平成16年7月19日から施行する。

附 則

この会則は、平成23年5月28日から施行する。

附 則

この会則は、平成26年5月31日から施行する。

## 【教育学部 教員一覧】

教育学部長：平 篤志  
副学部長：高木由美子  
副学部長：宮崎 英一  
副学部長：金網 知征

★学部担当教員一覧はコチラから

<https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/teacher/teacher.html>

★大学院（教職大学院）担当教員一覧はコチラから

[https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/teacher/g\\_teacher.html](https://www.ed.kagawa-u.ac.jp/teacher/g_teacher.html)

## 編 集 後 記

平素より後援会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。  
香川大学教育学部後援会会報第22号をお届けします。

今年度より会報を教育学部ホームページ内でご覧いただけるようになりましたので、ぜひご活用ください。

本年度の後援会（幸楠会）総会が、5月31日（土）に開催されました。令和6年度の事業報告や決算、令和7年度の事業計画や予算等の協議題審議を終えた後、平学部長や米村学生支援専門委員会委員長から教育学部の活動状況、本年3月卒業者の就職状況や就職活動支援の取り組み等の説明がありました。総会には約40名の方にご出席いただきました。総会終了後、学生の所属コース、領域、クラスごとに教員との懇談が行われました。

後援会会報には、学生が所属するコース・領域等の紹介、学部だより、教育研究などの活動紹介、地域連携、国際交流、就職・進学支援、後援会総会報告、教職員の名簿等、教育学部におけるさまざまな情報を掲載し、会員の皆様に提供しております。

会報の内容については、会員の皆様からご意見やご要望等をお聞きし、より充実したものにしたいと思っています。今後とも、より一層のご協力をお願いいたします。

---

幸 楠 会      香川大学教育学部後援会会報 第22号

発行日 令和7年9月

発行者 香川大学教育学部後援会

〒760-8522 香川県高松市幸町1番1号

香川大学教育学部内

TEL 087-832-1401・1404 FAX 087-832-1418

---



# 幸楠会

KOUNANKAI

香川大学教育学部後援会



## 香川大学キャラクター

細い線で「K」をモチーフにした動物(人)を描いています。「夢・個性」の発見に向けて、人一倍の「嗅覚(アンテナ)」を磨き生かし、知識、探究、思考、発想、実行を重ねながら、筋肉を身につけて魅力的な人となり社会に巣立つことをイメージしております。